

会 報

第28号

平成12年度



東京都立高等学校教頭会

会報第28号の発刊によせて

会長 山口 正 光

平成12年度の都立高等学校教頭会の「会報」第28号をお届けします。この会報は、教頭会の会則や会の歴史、会員の異動、本部役員会他各部会及び関係諸機関との交流など、本会の1年間の活動の様子を記録したものです。その時代の流れも分かる教頭会の歴史書としても、有効にご利用いただけるものと自負しております。

本年度は、17歳の少年による事件の続発や、三宅島の火山活動により全島民が避難して長期に不自由な生活を強いられるなど、暗いニュースが多い年でした。今でも都立秋川高校で、不慣れた環境の中、学業を続けている生徒諸君には、一刻も早く帰島ができるよう祈念しております。

日本の教育界に目を転じますと、教育改革の観点から、各界、各機関で論議が行われ、12月には「教育改革国民会議」から最終的な報告がなされました。戦後50年の教育の成果や反省の上にとって、これまでと異なる斬新な提言もなされ、特に奉仕活動の体験に関する提言は、今日、家庭で失われた子供の労働という観点からも、ぜひ何らかの形で実施して欲しいものです。また、教育改革プログラムの一環としての、今後の学級編制及び教職員配置について、「第7次義務教育諸学校教職員定数改善計画」として報告も出されましたが、学習環境改善への布石として期待しております。

一方、東京では4月の人事考課制度の導入、春季休業日の終期の問題、年間行事の見直しと、まさに積年の慣行を打破すべく、改革を断行してきました。戸惑う学校もあるような感じで、未消化にならなければよいがと心配ですが、こういったことが、これまでの親方日の丸的な教員の意識を変革させ、新しい教育の再生を図る良い機会になればと思います。また、昨年8月策定された「心の東京革命」の行動プランにおける、7つの呼びかけには全く同感で、昨今、家庭や地域社会で欠落した不易なるもの、あるいは子供の大人への信頼回復のためにも、ぜひ、大人社会からの実行を望みます。

さて、本年度の教頭会の活動も6月の総会・研究協議会に始まり、7月の全国大会は神奈川で行われ、東京からも84名が参加し、例年通り3委員会では研究成果を発表し、文部科学省などからも注目されるなど、成功裏に終了しました。今年から、教頭会主催になった9月の都立高等学校教頭研究協議会も、全、定・通教頭が一同に会し、内容的にも水準の高い研究成果が発表され、また、前全国校長協会会長、岡本裕之先生の講話も好評で、運営に自信を持った協議会となりました。ただ、本年度も機会ある毎にお話ししておりますが、まだまだ、教頭会の研究活動への会員の参加が少ない状況があります。どうか、教頭会の活動の趣旨をご理解いただき、来年度に向けては、さらなるご協力をお願いいたします。

次に、これはまだ決定された事ではありませんが、平成13年度からは、教頭会の活動のあり方が変化する可能性があります。そのようにならないためにも、平素の教頭会における会員の意志疎通と、これまで以上に水準の高い研究活動の実践が求められます。それにより、教頭会の歴史・内容が社会的に高く評価され、教頭会としての地歩を永続させる大きな力となることと信じております。教頭会の研究活動は、教頭会の生命でもありますから、この活動についての理解を、今後とも、強く都教育委員会へ訴えていく所存です。

最後になりましたが、本年度も9月の教頭研究協議会、1月の四者連絡会協議会など、お忙しい中をご指導、ご支援くださいました都教育委員会、校長協会の方々を始め、関係の皆様へ厚くお礼申し上げます。

また、この会報発刊のため、執筆・編集にご協力いただきました、関係各位のご協力と教頭会事務局の先生方のご尽力に感謝を申し上げ、発刊の挨拶といたします。

目 次

会長あいさつ（発刊によせて）

1. 教 頭 会 の あ ゆ み

1. 本会創設以前の教頭会	1
2. 会員数と会費の変遷	3
3. 本会のあゆみ	6
4. 本会のあゆみ一覧	9

2. 総 務 部 会 報 告

1. 本部の活動	13
2. 平成12年度予算	14
3. 平成12年度事業報告	16
4. 総会・懇談会	17
5. 幹事会	18
6. 総務部会	19
7. その他の会議	21
8. 特別委員会	21

3. 主 な 活 動 報 告

1. 全国高等学校教頭会	22
2. 都立高校教頭研究協議会	23
3. 四者協議会・四者懇談会	24

4. 学 区 別 支 部 教 頭 会 報 告

1. 第1学区高等教頭会	26
2. 第2学区高等教頭会	27
3. 第3学区高等教頭会	28
4. 第4学区高等教頭会	29
5. 第5学区高等教頭会	30
6. 第6学区高等教頭会	32
7. 第7学区高等教頭会	33
8. 第8学区高等教頭会	34
9. 第9学区高等教頭会	35
10. 第10学区高等教頭会	36
11. 島しょ地区高等教頭会	37
12. 多摩地区全日制高等教頭会	38

5. 学 科 別 支 部 教 頭 会 報 告

1. 普通科高等教頭会	39
2. 工業高等教頭会	40
3. 商業高等教頭会	41
4. 農業高等教頭会	43

6. 研 究 部 会 報 告

1. 管理運営研究部会	44
第1委員会（学校管理関係）	45
第2委員会（職務、待遇関係）	46
2. 高校教育研究部会	47
第1委員会（教育課程関係）	48
第2委員会（教育対策関係）	49
3. 生徒指導研究部会	50
第1委員会（生活指導関係）	51
第2委員会（教科外活動関係）	53

7. 会 員 異 動

会員異動	55
------	----

8. 編 集 後 記

58

1. 教頭会のあゆみ

1. 本会創立以前の教頭会

明治19年10月勅令65号「尋常師範学校官制」第3条「教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ、学校長ノ監督ニ属シ、教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル」とあり、また昭和16年3月勅令第148号「国民学校令」で「学校長及び教頭ハ其ノ学校の訓導ノ中ヨリ之ヲ補ス、教頭ハ学校長ヲ補佐シ校務ヲ掌ル」と定めるなど、戦前は教頭職制度があった。その当時の教育制度は5年制の中学校・高等女学校・工業学校・商業学校・農業学校などに分かれていた。戦前の教頭会は関係の深い学校同志が校務連絡と親睦のため集まる程度の会はあったが教頭会としての組織化されたものはなかった。

戦後の昭和22年3月法律第26号「学校教育法」公布により、教頭職は法制的になくなったので、校長の命ずる校務分掌の一部とし名ばかりの教頭が存在していた。昭和30年都教委は、「校務主任」の制度を設け、教頭全員に「校務主任」の辞令を渡し、12月1日付で任命した。このようなことから普・工・商・農などの教頭会は規約をもうけるなどし、各々「校務主任会」を組

織、やや教頭会的活動を行うようになった。その後昭和38年に全都の高校で組織する本会を創設した。本会が創立する以前の教頭会の歴史は次の通りである。（昭和49年2月内山調）

東教会（普通科）

昭和12年創立。昭和38年本会の創立により、昭和38年発展的解散

昭和12年春、府立第7高女に府立高女全校の教頭10名が集り親睦と校務連絡を目的に会を創設した（故松岡忍岡高女教頭の日記より）。昭和18年に都政がしかれ、府立高女も市立高女も全都立高女と呼ばれるようになった。そのとき全都立高等女学校25校が忍岡高女に集り総会を開き組織を強化した。その後、戦争のため会は開けなかったが、昭和24年より開けるようになり、昭和30年頃より男子系高校の入会も増加し会は発展してきた。昭和32年に都立高校校務主任会が発足したがこれと並行して会は存続、昭和38年都立高校教頭会が創立したので昭和39年1月23日、南多摩高校で最後の総会を開き発展的解散した。

年 度	昭12年	昭13年	昭18校	昭 19 年	昭 24 年	昭 25 年
会 員 数	10校	10校	25校	25校	31校	35校
会 費	——	——	——	戦争のため昭和24年まで中断する	300円	300円
当番幹事校と会場	府立第7高女	昭14~17年 不明	忍 岡		駒場、富士、忍岡、足立	竹台、井草、千歳、鷺宮

昭 和 26 年	昭 和 27 年	昭28年	昭29年	昭 30 年	昭 31 年	昭 32 年
35校	35校	35校	38校	40校	42校	46校
300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円
八潮、市谷、紅葉川、明正	京橋、本所、台東、三田	不 明	不 明	豊島、玉川、桜町、深川	雪谷、武蔵、北野、大崎	南多摩、目黒、神代、江北

昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年	昭 38 年	昭 39 年
48校	50校	50校	60校	63校	63校	63校
300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円
千歳丘、一橋、足立、荻窪	白鷗、南多摩、富士森、府中	竹早、本所、広尾、青山	志村、板橋、北多摩	不 明	不 明	不 明

会合は毎年5回を目標にし、4回は学校、1回は外部の会場を選んだ。

（昭和49年2月神藤調、昭和50年神藤訂正）

東京都立高等学校校務主任会（普通科）

昭和32年創立。昭和38年本会創立全校入会、その後普通科高校教頭会支部となる。

昭和32年1月17日駒場高校で普通科高校が集り、各学区から幹事を出し、その中から代表幹事をめきる組織で創立総会を行った。目的は親

睦と校務連絡が主なもので、第1回の総会と年2～3回の幹事会を行う程度の会であった。組織は普通科高校全体であるが、大島・三宅・八丈の島関係は未加入、昭和35年府中高、昭和38年は深沢・小岩・小平・南・大山の5校新設入会とし、86校となる。

年 度	昭 32 年	昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年
会 員 数	76校	76校	76校	77校	77校	77校
会 費	500円	500円	500円	500円	500円	500円
代 表 幹 事	鈴木 菊雄 (駒 場)	森本久次郎 (日比谷)	岸田 文男 (西)	渡辺 元 (板 橋)	細沼 清 (白 鷲)	田代清三郎 (両 国)

(昭和49年2月神藤、内山調、昭和50年2月神藤、内山訂正)

東京都立工業高等学校教頭会

昭和25年創立。昭和38年本会創立全校入会、その後工業高校教頭会支部となる。

はじめは校長会主催の教頭をねぎらう親睦の会であったが、昭和31年に校務主任会と名称を変え、会則を設けるなどし、会長と幹事3名で運営するようになり、昭和38年には幹事長と副

幹事長、幹事4名に変更され現在に至っている。組織は工業高校全校であるが、昭和31年共同実習所入会、昭和34年一橋工と羽田工が合併、同年烏山工新設、昭和38年は練馬・荒川・足立・葛西・田無・多摩・砧・杉並・町田・府中の新設10校、同年航空工廃止し、共同実習所を含めて29校となる。

年 度	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年	昭33年	昭34年
会員数	19校	19校	19校	19校	19校	19校	20校	20校	20校	20校
会 費	会場校の負担から必要に応じ徴収するようになる						500円	500円	500円	500円
備 考	校長会主催の会から教頭会に発展						都立工業高校校務主任会			

東京都立商業高等学校教頭会

創立は昭和26年頃らしい。昭和38年本会創立時に全校入会。その後商業高校教頭会支部となる。

はじめのうちは記録がないので不明であるが、

昭35年	昭36年	昭37年
20校	20校	20校
500円	500円	500円
都立工業高校校務主任会		

(昭和19年2月内山・遊佐調、昭和50年2月内山・元田訂正)

昭和32年に組織を強化し、幹事長制度を設け、年に数回の会合を行っている。

その後、昭和38年に四谷・赤羽の2校新設入会し、25校となった。

年 度	昭 32 年	昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年
会員数	不 明					25校
会 費	不 明					1,000円
備 考	都立商業高校校務主任会					

(昭和49年2月八田調)

東京都立農業高等学校教頭会

昭和24年創立。昭和38年本会創立時に全校入会。その後農業高校教頭会支部となる。

はじめは記録がないので不明であるが、教頭の集まる会はあった。昭和30年に会則を設け、

持ち廻り幹事で運営していたが、昭和36年に幹事を2名に強化し、毎年6回の会合を行っている。会員数は昭和32年に農産高が独立、昭和36年大島・三宅・八丈の農業科3校入会、昭和40年瑞穂農芸高独立し、9校となる。

年 度	昭24年	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年	昭33年
会員数	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	5校
会 費	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	500円	500円	500円	500円
備 考	教頭の集まる会はあったが細部不明									

2. 会員数と会費の変遷

本会創立から現在まで、学校数・会員数・会費・新設校のあゆみを次の表にまとめた。

<変遷表について>

1. 本校が設立した昭和38年度は新設17校と廃校1校があるので125校から140校となった。
2. 昭和38年～昭和45年は普+商・普+農・本会+分校・共同実習所など各々1校として入会、会員数は実際の学校数より多い。
3. 昭和38年大森高馬込分校（定）は南高として新設、同年代々木高（定）は3部制となり入会。

昭34年	昭35年	昭36年	昭37年
5校	5校	8校	8校
500円	500円	500円	500円
都立農業高校校務主任会			

（昭和49年2月池田調、昭和50年2月山本訂正）

4. 昭和40年浅草高（定）は東高（全）に変わり新設、昭和46年大島高差木地分校は大島南校に変わり新設。
5. 昭和44年秋川高、昭和48年大島南高に舎監長制度が新設され入会、昭和48年だけ世田谷工高は2人教頭であった。（昭和52年2月神藤・内山調、その後追加）

〔会員数と会費の一覧表〕

（昭和38年以降）

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和38年	140校	86人	28人	25人	8人	148人	—	500円	—	500円	深沢大山荒川工 練馬工 田無工 府中工 小岩四谷商 杉並工 足立工 多摩工 小平赤羽商 砧工 葛西工 町田工 (計17校)	杉並共実 五日市 北多摩 八丈 三宅 代々木 大島 (計8)
" 39	141	88	30	25	8	151	—	500	—	500	練馬 (計1校)	杉並共実 江東共実 代々木 赤坂 北多摩 五日市 浅草(定) 大島 三宅 (計10)
" 40	144	90	30	24	9	153	—	500	—	500	秋川 瑞穂農芸 久留米 東 (計4校)	杉並共実 江東共実 代々木 赤坂 北多摩 五日市 大島 三宅 (計9)
" 41	145	91	30	20	6	147	—	500	—	500	日野 (計1校)	杉並共実 江東共実 (計2)
" 42	146	92	29	20	6	147	—	1,000	—	1,000	羽田 (計1校)	杉並共実 (計1)

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入 会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校 名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和 43年	147	94	29	20	6	149	—	1,000	—	1,000	東村山 (計1校)	秋川 (舎監長) 杉並共実 (計2)
"	44	149	97	28	20	151	—	1,000	—	1,000	国分寺 小笠原 (計2校)	秋川 (舎監長) 差木地分校 (大島) (計2)
"	45	149	97	28	20	151	1,000	—	—	1,000	— (な し)	前年に同じ (計2)
"	46	155	102	28	20	156	1,000	—	—	1,000	湖 江 福 生 新 島 東大和 忠 生 大島南 (計6校)	秋川 (舎監長) (計1)
"	47	161	108	28	20	162	1,000	—	—	1,000	片 倉 府中東 神 津 永 山 保 谷 芸 術 (計6校)	前年に同じ (計1)
"	48	164	112	29	20	167	9,000	—	—	9,000	葛西南 狛 江 清 瀬 (計3校)	秋川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 世田谷工 (2人制) (計3)
"	49	168	116	28	20	170	9,000	—	—	9,000	高 島 足立西 調布北 久留米西 (計4校)	秋川 (舎監長) 大島南 (舎監長) (計2)
"	50	172	120	28	20	174	9,000	—	2,000	11,000	水 元 府中西 武蔵村山 野津田 (計4校)	前年に同じ (計2)
"	51	177	125	28	20	179	9,000	—	5,000	14,000	光 丘 八王子東 青梅東 足立東 武蔵村山東 (計5校)	前年に同じ (計2)
"	52	184	132	28	20	186	9,000	—	5,000	14,000	青 井 調布南 稲 城 羽 村 篠 崎 小平西 秋留台 (計7校)	前年に同じ (計2)
"	53	191	139	28	20	193	9,000	—	6,000	15,000	蒲 田 八王子北 昭 島 大泉北 成 瀬 城 東 清瀬東 (計7校)	前年に同じ (計2)
"	54	196	144	28	20	198	9,000	—	6,000	15,000	永 福 足立新田 南 野 砂 川 武蔵野北 (計5校)	前年に同じ (計2)
"	55	202	150	28	20	204	9,000	—	6,000	15,000	大森東 大泉学園 館 小 川 日野台 小金井北 (計6校)	前年に同じ (計2)
"	56	202	152	28	20	206	9,000	—	6,000	15,000	田 柄 松ヶ谷 (計2校)	秋川 (舎監長) 大島南 (舎監長) (計2)
"	57	204	152	28	20	206	9,000	—	6,000	15,000	— (な し)	前年に同じ (計2)
"	58	207	155	28	20	209	9,000	—	6,000	15,000	小平南 田 無 山 崎 (計3校)	前年に同じ (計2)
"	59	209	157	28	20	211	9,000	—	6,000	15,000	東大和南 東村山西 (計2校)	前年に同じ (計2)
"	60	210	159	28	20	213	11,300	—	6,000	15,000	南 平 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 (計3)
"	61	210	160	28	20	214	11,300	—	6,000	17,300	— (な し)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 (計4)

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入 会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校 名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和 62年	210	160	28	20	6	214	11,300	—	6,000	17,300	— (な し)	前年に同じ (計4)
" 63	211	162	28	20	6	216	11,300	—	8,000	19,300	八王子高陵 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 国際 (開設) (計5)
平成 元	212	162	28	20	6	216	11,300	—	8,000	19,300	国 際 ※赤城台 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 (計4)
" 2	213	163	28	21	6	218	11,300	—	8,000	19,300	単位制 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 単位制 (普・商) (計5)
" 3	212	162	28	21	6	217	11,300	—	8,000	19,300	単位制を新宿山吹と改称	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 新宿山吹 (普・商) (計5)
" 4	212	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	※紅葉川中央校舎 ○赤 坂 (普→商) ○五日市 (普→商)	前年に同じ (計5)
" 5	212	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	— (な し)	前年に同じ (計5)
" 6	213	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	(公立学校開設)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 隅田川堤校舎、新宿山吹 (普・商) (計4)
" 7	214	161	28	23	6	218	11,300	—	10,000	21,300	※北 京橋、京橋南 飛鳥開設	前年に同じ (計4)
" 8	214	161	28	23	6	218	11,300	—	10,000	21,300	晴海総合高校開設 (計1校)	前年に同じ (計4)
" 9	211	159	28	22	6	215	11,300	—	10,000	21,300	— (な し)	前年に同じ (計4)
" 10	211	159	28	22	6	215	11,300	—	10,000	21,300	※江東工	前年に同じ (計4)
" 11	211	158	28	22	6	214	11,300	—	10,000	21,300	—	新宿山吹2名から1名となる
" 12	212	167	33	21	9	230	11,300	—	10,000	21,300	桐ヶ丘南工開設 ※羽田、城北	教頭複数配置校大幅増 (計18)

3. 本会のあゆみ

昭和32年度 12月：文部省は「学校教育法施行規則」を改正、第22条に教頭職を位置づけた。

昭和35年度 4月：都教委は「東京都公立学校の管理運営に関する規則」に教頭職を設け、「校務主任」を「教頭」に改め、辞令を渡した。

4月：文部省は教頭を「管理または監督の地位にある管理職手当支給対象」に入れた。都教委は教頭を管理職と位置づけ、はじめて管理職手当7%を支給した。

昭和37年度 38年1月：全国高等学校教頭会は、都立両国高校で創立総会を開催した。

昭和38年度 6月20日：都立高校校務主任会（普通科教頭会）と各職業高校校務主任会（各職業科教頭会）が合同し、「東京都立高等学校教頭会」が誕生した。当時の会員数は140校148人であった。

昭和39年度 40年1月：「ILO78号条約批准にともなう国内法の改正」により「人事院規則17-0」を改正した。都教委は管理職手当を8%に増額した。

昭和41年度 7月9日：文部省は教頭を正式に管理職の範囲に指定した。

昭和42年度 6月：都教委は教頭の管理職手当を10%に増額した。

昭和45年度：都教委は教頭の管理職手当を10%から15%に増額、教頭会に教育研究団体費（都費）1校あたり1,000円の割で補助された。本会はこの年「全国高等学校教頭会」に正式加入し、本会会則の一部改正により、毎年交代制の代表幹事を、継続できる会長制に改め、組織を強化した。この年から東京都立高等学校教頭研究協議会が箱根三昧荘にて1泊2日

で始まった。翌年からは2泊3日の研究協議会になった。

昭和46年度 5月：「教育職員の給与等に関する特別措置法」の公布があり、教諭に4%の教職調整額が支給された。

47年1月：都教委は教頭が教諭なので、管理職手当を15%から13%に減額した。

昭和47年度 「教頭職の法制化」を望む世論の高まりと共に教頭会意識も強まり、「親睦会的体質」から「活動できる体質」へ改善に着手した。役員組織、学区別・学科別支部教頭会、研究部会組織、継続活動のできる独立した事務局、これらの運営に必要な資金等を調査研究し、翌年度から3年計画で実施することにした。

昭和48年度 会則を変更し、活動のための細則を新設した。また、全国高等学校教頭会と協力し、事務所を新設した。本会は新役員組織と活動組織を新しくスタートさせ、本会の基礎となる大改革に着手した。都教委のご理解により、教育研究団体費（都費）を1校1,000から9,000円に増額された。そのお陰で研究集録・会報の増刊号が刊行できた。

49年2月25日：法律第2号「教員の人材確保に関する特別措置法」の公布があり、教頭職の法制化を望む世論の高まりと共に教頭会の活動に期待をよせる声が高まった。本会は全国高等学校教頭会に協力し、教頭職法制化と教頭職1等級格付に全力をあげ活動した。

昭和49年度 6月1日：法律第70号「学校教育法の一部を改正する法律」の公布により、教頭職が法制化されたので、都教委は10月1日教頭に「教頭職」を命ずる辞令伝達式を挙行了した。

50年3月1日：法律第9号「一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律」が公布される。（昭和49年神藤、内山調）

昭和50年度 4月1日：都教委は教頭職の75%を1等級に昇格発令した。これで「3年計画」の3年目、永年の念願が法制上完成した。本会の活動のため、会則の一部改正と各種内規を設け、活動資金1名宛5,000円（個人負担）の特別会費を10月に臨時総会を開き決定した。「活動できる体質」改善3年計画は、全員一致協力のもとめでたく完了した。

12月：文部省は主任制度化のため学校教育法施行規則の改訂を公布した。

昭和51年度：石油ショックで、東京都立高等学校教頭研究協議会は宿泊研修を中止し、2日の日程で、都内実施となった。

昭和53年度 6月8日：総会で、特別会費5,000円から6,000円に改正された。

昭和55年度 5月22日：法律第57号改正「教頭定数法」が施行され、教諭定数内で扱われていた教頭は、正式定数と定められた。その給与は地方交付税制度により、保証が受けられる。

5月：事務局は渋谷区宇田川のアパートから、同区同玄坂の島田ビル4階へ移転した。

7月15日：東京都条例第71号改正給与条例の公布と、東京都教育委員会規則第29号「昇給等に関する規則」の改正により、本年4月1日付で、校長は特1等級、教頭は1等級に全員格付された。これは昭和52年12月21日「給与法の一部改正」の公布によるものである。

昭和57年度：創立20周年を迎え、3月4日「創立20周年記念号」を発行した。

昭和59年度 8月：臨時教育審議会設置法が公布された。

昭和60年度 6月13日：総会で教育研究団体会費（都費）1校あたり9,000円から11,300円へ改正され、通常会費が増額された。そのお陰で全日制・定時制合同の

東京都立高等学校教頭研究協議会「研究協議会報告」創刊号が刊行できた。

昭和62年度：臨時教育審議会第3次答申（4月）と最終答申（8月）があった。これらに呼応して、研究部が中心となり、新しい時代の高校教育の改善と充実に務めていくことにした。

昭和63年度 5月：文部省は、初任者研修法を公布した。

6月9日：総会で、特別会費6,000円から8,000円に改正された。

平成2年度 9月：都教委は、校長・教頭・指導主事の任用制度を改正した。

3月1日：文部省は校長・教頭・永年勤続教諭に、期末・勤勉手当の傾斜配分加算率を通知した。

平成3年度 12月：文部省は生徒数急減のため、学級定員を45～40に学級編成基準を弾力化した。

平成4年度 6月23日：本会の30周年記念式典を举行し、総会で、特別会費8,000円から10,000円に改正された。

9月：学校週5日制を目指し、月1回土曜日が休業日になる。これに対応するよう総務部が中心となり、各校の校内態勢整備に務めてきた。

（平成4年 赤津改訂）

平成6年度 4月：普通科等の学級編制が1学級40人となり、入学選抜制度が、グループ選抜から各学校単独選抜となった。この制度は平成6年度の入学者から適用された。また、今年度から、高等学校学習指導要領が改定され、各校新教育課程の実施が始まった。本教頭会では、平成元年度から研究部が中心になって、これに伴う研究を継続してきた。

6月：平成8年7月に行われる全国大会（東京大会）を主管するため、本会は企画委員会を発足させた。

12月：都教委は、全都立学校の校長及び教頭に、職務に関する目標と成果及び職務に関する希望を自己申告させ、それらを参考にして今年12月の期末手当から、勤勉手当へ成績率を導入し経過措置として人事管理の適正を図った。

平成7年度 5月：全国大会（東京大会）準備委員会が総務部を母体にして結成され、11月に団結式が行われた。

6月：都教委は教頭問題等検討委員会を設立し、教頭の職務・任用制度・表彰制度・再雇用制度等について検討を始めた。本会からは川島副会長がその担当となった。（平成7年 奥井追加）

平成8年度 4月・5月：「補欠募集要項」、「全日制間の転学」についての改正が行われた。

7月～11月：「教頭問題検討委員会報告」（平成8年3月）を受けて「校長及び教頭の任用に関する基準及び東京都教育委員会表彰実施要項の一部改正」（7月）、「教頭職務の明確化のための規定整備について」（10月）、「校長・教頭業務実態調査について」（11月）、「東京都立学校事案決定規程の制定」（1月）等が相次いで出された。

7月23・24日：全国高等学校教頭会総会・研究協議大会が本会の主管で開催された。

10月：本会の研究部活動活性化に向けての「アンケート調査」が行われた。

1月25日：「これからの都立高校の在り方」についての答申が公表された。

平成9年度 6月：第15期中央教育審議会が「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について」、審議のまとめを答申した。

7月：教育職員養成審議会第1次答申が提出された。

8月：教育改革プログラムの主な改訂点が公表された。

9月：都立高校の予算について、検討報告書（案）が提案された。

10月：都立高校改革推進計画の概

要が公表され、向う10年間の長期計画が具体化されることになった。

本年度の特徴的な活動として、都教委（指導部）との協議（2回）、定通・事務長会との話し合いが持たれた。

3月：「都立学校あり方検討委員会報告書」が答申された。

平成10年度 6月：学校教育法の一部改正により、公立の中・高一貫校の設置が可能になった。都立高校では都立大学附属高校、三宅高校が発足する予定である。

7月：「東京都公立学校の管理運営に関する規則」の一部改正が行われた。

12月：東京都「教員の人事考課に関する研究会」より中間まとめが公表された。

3月：「高等学校学習指導要領」が公布された。

教頭会は都教委と本部役員との連絡会を2回開催し、諸課題について情報交換を行い、全教頭に周知徹底に努めた。

平成11年度 10月：都立高校改革・二次実施計画により、全日制23校、定時制17校が統合または再編成計画の対象として発表された。

12月：教員人事考課制度につき検討委員会報告が出され、平成12年度より実施されることとなった。

平成12年度 4月：教頭複数配置校が複数学科、工業・農業学科、単位制その他の高校を中心に15校増加された。従来からの舎監・分校を含め計18名となった。

同月：教員人事考課制度発足。

9月：全定教頭研究協議会が教育庁主催から全定教頭会の共催に変更された。教育予算削減等によるものであり、この会の意義については認識に変化なく引き続き教育庁の指導・支援を得ながら運営すべきことが確認された。

4. 本会のあゆみ一覧

本会運営は、昭和38年創立当初は幹事長制度、45年か — 長制度、48年度には役員組織と部会組織の規定を設け、現在に至っている。

年 度	幹 事 長	総 会	刊 行 物
昭和38	内山（立 川）	創立総会、白鷗（－）	会員名簿（13P）
“ 39	中馬（九 段）	総会、日比谷（－）	“ （13P）
“ 40	志村（玉 川）	“ 白鷗（－）	“ （13P）私費軽減（10P）
“ 41	小笹（富 士）	“ 教育会館（－）	“ （13P）
“ 42	鈴木（向 丘）	“ 私学会館（80名）	“ （13P）年間行事状況（4P）
“ 43	岸野（足 立）	“ 精養軒（90名）	“ （13P）会報（4P）
“ 44	池田（小松川）	“ “ （90名）	“ （13P） “ （4P）
“ 45	青木（北 園）	“ “ （90名）	“ （13P）調査（5P） 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編）不明 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）不明
		全国高等学校教頭会に東京都全員入会	
“ 46	青木（北 園）	総会 出版クラブ（90名）	会員名簿（13P） 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編）33P 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）40P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数（部長名）	刊 行 物
昭和 47	○神 藤（桜 町） 波多野（江東商）	な し	総会、青山会館（100名） 臨時総会、私学会館（80名） 常任幹事会 5回 体質改善計画立案と実施準備	な し 高校教頭研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）	会員名簿 15P 教頭勤務実態 10P 49P 40P
“ 48	○若 林（ 東 ） 波多野（江東商） 内 山（烏山工）	○神 藤	総会、青山会館（110名） 臨時総会（90名） 総務部会14名 5回 「体質改善3年計画」初年度着手 全国教頭会事務局内に本会事務局 を設置	管理研 25名（安 部） 高校研 24名（西 村） 生徒研 23名（古 賀） 高校教頭研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）	会員名簿 16P 会報創刊号 40P 研究集録創刊号 43P 67P 不明
“ 46	○内 山（烏山工） 波多野（江東商） 安 部（北多摩）	○神 藤	総会、青山会館（100名） 総務部会18名 6回 全国大会運営委員会（22名） 全国大会（九段会館・都市セッパ-）、	管理研 28名（吉 野） 高校研 24名（長 里） 生徒研 22名（古 賀） 高校教頭研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編） 文部大臣特別出席	会員名簿 18P 会報第2号 58P 教頭職に関する調査・研究 25P 32P 48P 出席520名

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
昭和 50	○内 山 (鳥山工) 千 野 (井 草) 石 坂 (小石川)	○神 藤	総会、出版クラブ (130名) 臨時総会、 ” (85名) 総務部会19名 5回 教頭会「体質改善3年計画」完了	管理研 28名 (吉 野) 高校研 26名 (長 里) 生徒研 22名 (小 林) 高校教頭研究協議会発表要旨 (都教委編) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 18P 会報第3号 49P 研究集録第2号 72P 研究集録第2号 28P 研究集録第2号 44P
“ 51	○千 野 (井 草) 西 村 (千 歳) 吉 野 (西)	○神 藤 内 山	総会、青山会館 (125名) 総務部会29名 5回	管理研 29名 (金 井) 高校研 30名 (長 里) 生徒研 37名 (小 林) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 19P 会報第4号 69P 研究集録第3号 75P 校長選考方法調査 5P 研究集録第3号 54P
“ 52	○千 野 (井 草) 梅 本 (北 園) 伊 藤 (忍 岡)	○神 藤 内 山	総会、青山会館 (135名) 総務部会26名 5回 全国大会運営委員会 (79名) 全国大会 (国立教育会館・プレスセンター・サンケイ会館)	管理研 35名 (金 井) 高校研 39名 (山 崎) 生徒研 37名 (諏訪部) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 24P 会報第5号 75P 教頭研究協議会資料 (研究集録第4号兼全国大会資料) 72P 研究集録第4号 44P 出席736名)
“ 53	○青 木 (南) 乃 方 (目 黒) 大 畑 (広 尾)	○神 藤 内 山	総会、市ヶ谷会館 (136名) 総務部会29名 6回	管理研 48名 (杉 江) 高校研 51名 (浅 川) 生徒研 46名 (吉 田) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 24P 会報第6号 81P 研究集録第5号 33P 研究集録第5号 46P
“ 54	○青 木 (南) 吉 田 (志 村) 安 西 (農 林)	○神 藤 内 山	総会、市ヶ谷会館 (142名) 総務部会29名 5回	管理研 50名 (高 橋) 高校研 73名 (佐 藤) 生徒研 52名 (大 滝) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第7号 83P 研究集録第6号 34P 研究集録第6号 63P
“ 55	○川 島 (四谷南) 鮎 沢 (戸 山) 大 滝 (葛西南)	神 藤 代 ○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (161名) 総務部会30名 5回 全国大会準備委員会 (6名)	管理研 59名 (高 橋) 高校研 78名 (田 辺) 生徒研 54名 (松 井) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第8号 82P 研究集録第7号 42P 研究集録第7号 49P
“ 56	○鮎 沢 (戸 山) 赤 津 (大 森) 桑 原 (板 橋)	○内 山 神 藤 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (175名) 総務部会32名 5回 全国大会運営委員会 (69名) 全国大会 (国立教育会館・サンケイ会館・農協ホール)	管理研 65名 (山 田) 高校研 72名 (鈴 木) 生徒研 66名 (白 井) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 28P 会報第9号 88P 研究集録 (全国大会資料兼) 42P 研究集録第9号 42P 出席973名)
“ 57	○赤 津 (大 森) 牛 込 (鷺 宮) 岡 田 (国 立)	○内 山 神 藤 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (176名) 総務部会36名 4回	管理研 65名 (山 田) 高校研 70名 (鈴 木) 生徒研 69名 (白 井) 創立20周年臨時号 (教頭の職務に関する研究特集) 高校教頭研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第10号 74P 研究集録第8号 66P 研究集録第9号 138P 研究集録第9号 53P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
昭和 58	○大 森 (田園調布) 剣 持 (杉 並) 鈴 木 (三 商)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (174名) 総務部会33名 4回	管理研 66名 (高 橋) 高校研 71名 (大 山) 生徒研 72名 (永 井)	会員名簿 26 P 会報第11号 78 P 研究集録第10号 66 P
" 59	○高 橋 (明 正) 飯 島 (蒲 田) 村 上 (練馬工)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (154名) 総務部会34名 4回 全国大会調査委員会 8 名	管理研 66名 (高 橋) 高校研 75名 (篠 田) 生徒研 70名 (山 本)	会員名簿 26 P 会報第12号 81 P 研究集録第11号 67 P
" 60	○山 本 (駒 場) 杉 内 (江 北) 清 水 (国分寺)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (164名) 総務部会34名 4回 全国大会準備委員会34名 4回	管理研 68名 (高 橋) 高校研 78名 (篠 田) 生徒研 67名 (岡 本)	会員名簿 26 P 会報第13号 83 P 研究集録第12号 77 P 研究協議会報告創刊号 54 P
" 61	○山 本 (駒 場) 杉 内 (江 北) 小 宮 (富士森)	○内 山 古 賀 赤 津	総会、市ヶ谷会館 (177名) 総務部会35名 4回 全国大会運営委員会64名 4回 全国大会 (国立教育会館、石垣ホール、ニッショウホール)	管理研 67名 (白 井) 高校研 72名 (篠 田) 生徒研 75名 (白 田)	会員名簿 26 P 会報第14号 78 P 研究集録第13号 74 P 研究協議会報告第 2 号 59 P 出席 1,101名
" 62	○中 村 (竹 早) 白 川 (新 宿) 廣 瀬 (保 谷)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(161名) 総務部会34名 4回	管理研 84名 (高 橋) 高校研 61名 (田 口) 生徒研 69名 (栗 田)	会員名簿 26 P 会報第15号 74 P 研究集録第14号 71 P 研究協議会報告第 3 号 63 P
" 63	○白 川 (新 宿) 廣 瀬 (保 谷) 中村 (新) (千歳丘)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(158名) 総務部会34名 4回	管理研 93名 (鈴 木) 高校研 61名 (田 口) 生徒研 62名 (栗 田)	会員名簿 26 P 会報第16号 71 P 研究集録第15号 69 P 研究協議会報告第 4 号 71 P
平成 元	○崎 田 (狛 江) 奥 井 (豊 島) 小 峰 (練 馬)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(160名) 総務部会34名 4回	管理研 86名 (木 村) 高校研 64名 (澤 井) 生徒研 68名 (福 島)	会員名簿 27 P 会報第17号 73 P 研究集録第16号 63 P 研究協議会報告第 5 号 68 P
" 2	○奥 井 (豊 島) 木 村 (国分寺) 和 田 (光 丘)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(151名) 総務部会34名 4回	管理研 85名 (井 上) 高校研 65名 (進 藤) 生徒研 68名 (延 藤)	会員名簿 27 P 会報第18号 74 P 研究集録第17号 68 P 研究協議会報告第 6 号 73 P
" 3	○木 村 (国分寺) 和 田 (光 丘) 嶋 澤 (芝 商)	○赤 津 奥 井	総会、青山会館 (140名) 総務部会33名 4回	管理研 86名 (野 中) 高校研 64名 (大 室) 生徒研 67名 (原 口)	会員名簿 27 P 会報第19号 73 P 研究集録第18号 68 P 研究協議会報告第 7 号 69 P
" 4	○高 橋 (小平南) 栗 林 (大泉学園) 井 上 (瑞穂農芸)	○赤 津 奥 井	総会、青山会館 (174名) 創立30周年記念式典・祝賀会 青山会館 (120名) 総務部会34名 4回	管理研 81名 (浦 野) 高校研 70名 (大 室) 生徒研 66名 (結 城) 創立30周年記念誌 編集委員会 (高 橋)	会員名簿 27 P 会報第20号 78 P 研究集録第19号 66 P 研究協議会報告第 8 号 55 P 創立30周年記念誌 81 P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
平成 5	○高 橋 (小平南) 浦 野 (保 谷) 井 上 (瑞穂農芸)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (142名) 総務部会35名 4回	管理研 77名 (桑 原) 高校研 71名 (武 田) 生徒研 69名 (横 田) 平成5年1月、奥井	会員名簿 27P 会報第21号 67P 研究集録第20号 64P 研究協議会報告第9号 54P 昭和45～58年度について追加
” 6	○原 口 (南 野) 川 島 (富 士) 内 海 (墨田工)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (132名) 総務部会34名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 2回	管理研 74名 (牛 島) 高校研 75名 (武 田) 生徒研 68名 (横 田)	会員名簿 27P 会報第22号 68P 研究集録第21号 64P 研究協議会報告第10号 53P
” 7	○原 口 (南 野) 川 島 (富 士) 白 鳥 (芝 商)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (130名) 総務部会35名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 3回 全国大会準備委員会 (全員) 5回	管理研 73名 (新 妻) 高校研 75名 (森 本) 生徒研 70名 (横 田)	会員名簿 27P 会報第23号 68P 研究集録第22号 64P 研究協議会報告第11号 58P
” 8	○白 鳥 (芝 商) 安 盛 (小松川) 中 西 (井 草)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (137名) 総務部会35名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 5回 全国大会運営委員会 (65名) 5回 全国大会 (国立教育会館、灘尾ホール、石垣ホール)	管理研 74名 (新 妻) 高校研 72名 (森 本) 生徒研 72名 (廣 見)	会員名簿 27P 会報第24号 82P 研究集録第23号 62P 研究協議会報告第12号 60P 出席 1,260名
” 9	○白 鳥 (芝 商) 安 盛 (小松川) 中 西 (井 草)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (152名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (松江市) 61名参加	管理研 64名 (新 妻) 高校研 74名 (東) 生徒研 77名 (小 泉)	会員名簿 24P 会報第25号 60P 研究集録第24号 54P 研究協議会報告第13号 54P
” 10	○東 (富 士) 山 口 (府 中) 松 尾 (農 業)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (144名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (秋田市) 82名参加	管理研 70名 (新 妻) 高校研 73名 (松尾川) 生徒研 72名 (中 村)	会員名簿 24P 会報第26号 58P 研究集録第25号 56P 研究協議会報告第14号 62P
” 11	○鈴 木 (深 川) 山 口 (府 中) 齋 藤 (中野工)	○奥 井 高 橋	総会、星陵会館 (169名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (高知市) 83名参加	管理研 72名 (新 妻) 高校研 71名 (小 林) 生徒研 71名 (大 澤)	会員名簿 24P 会報第27号 60P 研究集録第26号 49P 研究協議会報告第15号 56P
” 12	○山 口 (府 中) 上 林 (武蔵野北) 相 川 (三 商)	○奥 井 高 橋	総会、星陵会館 (108名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (横浜市) 85名参加	管理研 78名 (白 木) 高校研 73名 (小 林) 生徒研 79名 (橋 本)	会員名簿 24P 会報第28号 60P 研究集録第27号 48P 研究協議会報告第16号 55P

2. 総務部会報告

1. 本部の活動（総務部会・幹事会を除く）

会 長 山 口 正 光

平成12年

- 4月24日（月） 平成12年度東京都立高等学校入学者選抜に関する懇談会
- 5月9日（火） 会計監査・本部役員運営委員会
- 12日（金） 平成12年度定・通教頭会総会
- 6月2日（木） 平成12年度都立高等学校事務長会総会（40周年）
- 5日（月） 日本教育会理事評議員会
- 6日（火） 平成12年度都立高等学校教頭研究協議会運営委員会（第1回）
教頭会総会運営委員会
- 8日（木） 平成12年度教頭会総会・研究協議会
- 12日（月） 東京都教育管理職訴訟理事会
- 16日（金） 東京都教育公務員弘済会評議員会
- 24日（土） 平成12年度PTA連合会総会
- 7月4日（火） 四者連絡会・協議会準備会（第1回）
- 11日（火） 平成12年度都立高等学校教頭研究協議会運営委員会（第2回）
- 14日（金） 平成12年度東京地区公立高等学校PTA連絡会大会
- 26日（水）～28日（金） 平成12年度全国高等学校教頭会総会・研究協議大会（横浜市）
- 9月7日（木） 平成12年度都立高等学校教頭研究協議会運営委員会（第3回）
- 11日（月） 平成12年度都立高等学校教頭研究協議会（都立教育研究所）
- 10月6日（金） 会計中間監査・本部役員会
- 11月9日（木）～10日（金） 平成12年度関東地区高校教頭研究協議会（伊香保）
- 18日（土） 役員・研究部幹部協議会
- 28日（火） 平成12年度都立高等学校教頭研究協議会運営委員会（第4回）
- 12月5日（火） 四者連絡会・協議会準備会（第2回）
- 15日（金） 校長協会との連絡協議会
- 20日（水） 都教委との研究協議会

平成13年

- 1月16日（火） 平成12年度四者連絡会・協議会、懇談会
- 3月8日（木） 事務事業連絡会

2. 平成12年度予算

(1) 通常会計(都費)

平成12年4月1日

収 入

東京都立高等学校教頭会

項 目	前年度決算	予 算	備 考
通 常 会 費	2,384,300	2,384,300	都費211校×11,300円
雑 収 入	346	500	預金利息
繰 越 金	88,459	93,769	平成11年度より
合 計	2,473,105	2,478,569	5,310増

支 出

項	目	前年度決算	予 算	備 考
運 営 費	会 議 費	109,995	80,000	総務部会(4回)、幹事会(2回)等
	資 料 費	4,485	5,000	教職員名簿、東京都学校名簿
	旅 費	56,000	85,000	関東地区教頭協議会
	通 信 費	48,720	40,000	切手、はがき等
	印 刷 費	25,935	30,000	封筒、はがき印刷
	運 搬 送 料 費	64,721	50,000	全国・都刊行物配布等
	消 耗 品 費	41,617	15,000	事務用品、帳簿等
	小 計	341,473	305,000	
事 業 費	学科別教頭会	284,000	308,000	普166人×1,000 工33人×2,000 商 21人×2,000 農12人×2,800
	学区別教頭会	303,000	326,000	215人×1,400 端数切上げ
	研 究 部 会	300,000	318,000	25,000×6×2回／年 ”
	会 員 名 簿	262,500	270,000	A 4 . 700部 24 P
	会 報 費	365,085	360,000	A 4 . 550部 64 P
	研 究 集 録	278,775	295,000	A 4 . 720部 54 P
	研究協議会報告	244,503	280,000	A 4 . 500部 68 P
	小 計	2,037,863	2,157,000	
予 備 費		0	16,569	
合 計		2,379,336	2,478,569	

(2) 特 別 会 計 (個 人)

平成12年 4 月 1 日

東京都立高等学校教頭会

収 入

項 目	前年度決算	予 算	増 減	備 考
特 別 会 費	2,140,000	2,290,000	150,000	229人×10,000
研 究 助 成 金	500,000	500,000	0	財・都教育公務員弘済会
負 担 金	72,000	72,000	0	私立高校6,000×12名
雑 収 入	55,366	500	△ 54,866	預金利息
繰 越 金	2,250,820	2,429,452	178,632	
合 計	5,018,186	5,291,952	273,766	

支 出

項	目	前年度決算	予 算	備 考
運 営 費	会 議 費	481,539	500,000	総務部会、幹事会、総会、四者懇、都教委・校長等懇、教頭研究協
	印 刷 費	132,720	170,000	総会資料等
	旅 費	28,000	120,000	全国大会派遣費 1泊10,000×8名他
	渉 外 費	15,218	60,000	友好団体会出席祝儀等
	全 国 会 費	48,000	120,000	私立高校+都立複数教頭校分
	運 搬 送 料 費	53,169	100,000	切手、宅配等送料（私立高を含む）
	資 料 費	74,675	80,000	読売新聞、日本教育新聞等
	周 年 行 事 費	0	2,000,000	創立40周年基金、資料作成、次回大会基金その他
	食 料 費	0	20,000	本部費等
	雑 費	28,480	30,000	事務用品等
	小 計	861,797	3,200,000	
維 持 費	慶 弔 費	87,937	170,000	退職記念品（15名）、見舞金等
	人 件 費	776,000	880,000	全国分担金（実費1/10）
	家賃・光熱費	663,000	740,000	” （実費1/10）
	小 計	1,526,937	1,790,000	
予 備 費		200,000	301,952	
合 計		2,588,734	5,291,952	

3. 平成12年度 事業報告

平成13年 3月31日

東京都立高等学校教頭会

会 合

平成12年 4月13日 (木)	総務部会①	神楽坂エミール	出 席	28名
5月11日 (木)	幹事会①	神楽坂エミール	〃	40名
6月9日 (木)	総会・研究協議会	星陵会館 (来賓3名)	〃	108名
		懇談会 (来賓8名)	〃	83名
7月6日 (木)	総務部会②	神楽坂エミール	〃	31名
9月11日 (月)	都教頭研究協議会	都立教育研究所／全員 (169名＋私立3)		
10月12日 (金)	総務部会③	神楽坂エミール	〃	29名
11月7日 (火)	幹事会②	神楽坂エミール	〃	39名
平成13年 1月12日 (木)	総務部会④	神楽坂エミール	〃	29名
1月16日 (火)	四者連絡協議会	神楽坂エミール	〃	25名
	同・懇談会			20名

総務部会 (年4回)

1. 規約に従って会運営の原案作成及び協議、各学区、各学科・各研究部との連絡調整を行った。
2. 第38回全国高等学校教頭会、総会・研究協議大会 (秋田) 実施の援助を行った。
3. 定期刊行物発行方針・企画・編集や都教育庁関係資料の会員への配布や研究等を行った。
4. 総務部会・幹事会・総会等には行政担当者の講話等を通して会員への理解を深めた。
5. 教育庁、全国高等学校教頭会、各種友好団体との情報交換に努め、相互理解を深めた。

研究部会 (定例日：毎月第1木曜日)

1. 全会員 (230名) で組織し、管理運営研究部会 (第1委員会40名、第2委員会37名)、高校教育研究部会 (第1委員会36名、第2委員会37名)、生徒指導研究部会 (第1委員会44名、第2委員会36名) の3部会6委員会に分れ、毎月第1木曜日に研究協議を行った。
2. 各委員会毎にテーマに設定し、その研究成果を「研究集録第27号」にまとめ、教育庁、校長・教頭 (全・定) 全員に配布をすると共に、各種友好団体に寄贈した。
3. 教育庁主催の教頭研究協議会に各委員会より各1論文、全国高等学校教頭会の全国大会 (神奈川大会) に各研究部から1論文 (管理研第1、高校研第1、生徒研第1) の研究発表を行った。
4. 研究部会・委員会の活性化を図るため、各委員会毎に学区1名の研究連絡委員を引き続き選出し、協議内容の充実と全会員への浸透を図るように努めた。

そ の 他

1. 都教委と役員と話合う会 12月20日 指導部 高野敬三主任指導主事と役員10名で研究部活動のあり方その他につき率直に意見交換を行った。
2. 第39回全国大会 (於、横浜市) は参加者1,175名中、東京は84名参加
3. 関東地区教頭研究協議会 (群馬県主管) 全国会長のほか5名参加 (内、公費1名)

刊 行 物

- | | | | |
|------------------|------------------|-----------------|---------------|
| 1. 会員名簿 | (A4版) 平成12年 6月8日 | 24頁 650部 | 校長・全定教頭、都教委など |
| 2. 総会資料 | 〃 | 6月8日 12頁 520部 | 校長・教頭・都教委など |
| 3. 研究集録 (27号) | 〃 | 8月3日 56頁 650部 | 校長・全定教頭、都教委など |
| 4. 研究協議会報告 (16号) | 〃 | 11月21日 55頁 650部 | 校長・全定教頭、都教委など |
| 5. 会報 (28号) | 〃 | 3月21日 58頁 650部 | 校長・教頭・都教委など |

4. 総会・懇談会

(1) 総会・研究協議会

6月9日(木) 14時～15時30分

於、星陵会館

出席 会員 108名

来賓 4名

高野敬三 指導部主任指導主事

島田悦郎 都公立高校定通教頭会会長

後藤和美 都立学校事務長会会長

清水泰岳 都教育公務員弘済会理事長

司会：上林 勇(武蔵野北)

会長挨拶 山口正光(府中)

来賓挨拶 高野敬三先生

島田悦郎先生

後藤和美先生

議事 議長：相川 鞆彦(第三商)

1. 平成11年度事業報告……………会 長

2. 同 決算報告……………会 計

3. 同 会計監査報告……………会計監査

4. 平成12年度役員選出……………会 長

5. 同 部会組織……………会 長

6. 同 全国役員の推薦……………会 長

7. 正副会長・全国会長候補 挨拶

役員・常任幹事・研究部長・委員長

事務局長・次長の紹介……………会 長

8. 平成12年度事業計画……………新会長

9. 平成12年度予算……………新会計

10. その他 特別表彰

新妻 紘(国際) 研究部活動への貢献

注・議事はいずれも異議なく承認された。

・校長協会代表は重要会議があり、総会は欠席、教育懇談会にて挨拶を頂いた。

・当日は教頭対象の同和教育研修会と日程が重複することとなったため、総会出席者が例年より少なくなった。

(2) 講 話 15時50分～16時50分

「教育改革における都立高校改革の位置づけについて」

学務部都立高校改革推進

松原恒美 担当課長

この講話のために用意された手づくりの資料の解説をされた。以下はその要旨。

①改革の背景は少子化、家庭や地域の教育力の

低下などによる子どもの変化にある。

②高校進学率と中退率の動向、問題行動の増加も併せてこれに関連している。

③今後の学校での取組みの重点

・先導的な新タイプの高校づくり、競争原理の導入、卒業後の進路による高校の区分化などにより各校の特色化の方向をいっそう明確にする

・中退者の再入学を容易にする

④行政、地域のサポート

・都立高配置の適正化

(規模、学校数、学区制)

・開かれた学校づくりの支援

⑤今後の方策

・教員研修システムの充実

・学校経営者へ 計画的経営を求める

(長期の改革計画、中期改善計画、短期運営計画の策定など)

(3) 教育懇談会 17時00分～18時30分

参加 83名

来賓 大崎徳三郎 学務部高校教育課長

吉田 崇雄 指導部高校教育指導課長

高野 敬三 同 主任指導主事

小栗 洋 人事部管理主事

山口幸一郎 同

河上 一雄 都公立高校長協会会長

後藤 和美 都立学校事務長会会長

◎来賓挨拶

教育委員会 吉田高指課長 その他

都校長協会 河上一雄 日比谷高校長

全国教頭会長 近藤国男 小金井工

◎新入会員紹介

定通等からの転入教頭24名、新任教頭27名を紹介し、新入会員代表として

羽 村 室伏 哲郎 (定通)

桐ヶ丘 柳 久美子 (新任)

の両教頭が挨拶した。

付、会員の異動

3 / 31 退職13名

4 / 1 校長栄進21名 含、11年10月付1名

7 / 1 市ヶ谷商 山本 吏一 本所高校長へ
後任 大田原弘幸(町田・定教諭)

10 / 1 荒川商 藤井 正俊 第四商校長へ
後任 大本 静代(八潮・定教諭)

5. 幹 事 会

総会に次ぐ機関で主に総会提出議案や総務部会からの原案の審議を行う。

第1回幹事会

5月11日（木） 14時30分～17時

於. 神楽坂エミール

出席者 66名中 40名

【会議次第】

議長 菅又勝雄 5学区常任幹事・忍岡

1. 会長挨拶……………鈴木会長
2. 指導部連絡……………高野主任指導主事
3. 平成11年度事業報告……………鈴木会長
4. " 決算報告……………小林・千谷新会計
5. " 監査報告……………矢嶋・寺嶋新監査
6. 平成12年度事業計画と予算案
……………会長・会計
7. " 緊急連絡網……………事務局
8. " 役員組織（都・全国候補）
……………鈴木会長・近藤新全国会長
9. " 全国部会組織……………近藤新全国会長
10. 新旧役員挨拶……………都本部・全国三役
11. 全国教頭会報告……………近藤新全国会長
12. 事務局より（総会その他の連絡）
13. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事、部長・委員長

【コメント】

⇒ 教育委員会「教頭功労」表彰の紹介

柘植章宣（葛飾商） 石塚和夫（荒川商）
鈴木國夫（深川） 飯高成男（墨田工）
小暮公男（南多摩） 松野靖臣（北多摩）
鈴木守文（府中工）

（3月28付 7名）

- ⇒ 例年第1回目は総会の議案審議・関連する連絡が中心となる。議案は異議なく承認。
- ⇒ 議事13の学区等の支部教頭会報告が毎回時間不足になる。
- ⇒ 開会挨拶と閉会挨拶 ⇒ 学区等の活動報告の時間を確保したいとの会長方針により会議次第から削除した。

第2回幹事会

11月14日（火） 14時30分～17時

於. 神楽坂エミール

出席者 66名中 39名

【会議次第】

議長 渡部静夫 7学区常任幹事・忠生

1. 会長挨拶……………山口会長
2. 指導部連絡……………高野主任指導主事
（緊急の庁務のため取りやめ）
3. 本年度上半期の事業報告……………山口会長
4. " 会計中間報告……………千谷・小林会計
5. " 中間監査報告……………矢嶋・寺嶋監査
6. 平成12年度行事計画……………上林副会長・代
7. 四者連絡協議会……………上林副会長
8. 全国教頭会報告……………近藤全国会長・代
9. 会報28号執筆について・他……………事務局
10. 教頭研究協議会報告……………相川副会長
11. 学区・学科・研究部の報告……………常任幹事他

【コメント】

⇒ 九月教頭研の反省

教育庁主催から全定教頭会共催へ変更となった点を巡って議論が白熱した。

- ・この際、思いきって自立してはどうか。
- ・全国大会は重要な情報が交換されている。それも各県段階の地道な研究を基礎に成立っている。東京の研究発表はその柱石になっている。教育庁に理解されているのか。
- ・教育庁指導部との共催など「指導部の支援」の形が望ましい。指導部と話合っている。
- ・主催変更はあくまで教育予算削減によるもので教頭会の研究の意義を否定するのではない。
- ・予算を伴わないで可能な支援は従来通り続けられると話を頂いている。

⇒ 関東地区研究協議会報告

11月9～10日 於. 群馬県伊香保町

近藤全国会長他 都役員5名参加（内、1名は公費出張）

管理運営・生徒指導のほか新教育課程への取組みにつき熱心に協議した。東京から人事考課制度の実施について報告し反響があった。総勢 100名程度で協議に丁度よい規模だった。

⇒ 伊豆諸島地震災害の実態報告

教育情報交換会が会議次第終了後開かれた。島地区常任幹事は平素の総務部会にも出席できないことが多いが、この日は宮崎高一教頭（新島）が出席。挨拶代わりに三宅島など3島の高校の苦心話をきっかけに質問が集中した。初期対応、情報収集の重要性など危機管理上、収穫が多かった。

6. 総務部会

第1回

4月13日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席35名中 25名

【会議次第】

司会 4学区 宮島教頭(文京)

1. 開会挨拶……………山口副会長
2. 会長挨拶……………鈴木会長
3. 指導部の連絡……………高野主任指導主事
4. 昨年度の活動の概況と
教育庁関連の課題……………鈴木会長
5. 年度当初の会合日程……………事務局
6. 役員組織と部会組織の名簿……………事務局
7. 正副会長、会計、監査推薦……………鈴木会長
8. 全国役員候補(三役)推薦……………鈴木会長
9. 新旧役員挨拶(都・全国)……………新旧役員
10. 全国教頭会報告……………松野全国会長
11. 学区・学科の報告……………常任幹事
12. 研究部委員会報告……………部長・委員長
13. 事務局からの連絡……………事務局
14. 閉会挨拶……………山口副会長

【コメント】

- ⇒例年通り旧総務部員と新役員候補で開催。
人事異動のため3名が代理出席。
- ⇒教育庁 高野敬三 主任指導主事
に教頭会担当お願いすることになった。
- ⇒新役員候補紹介の他、学区などの組織体制
に関する指示・連絡事項が多い。
- ⇒複数教頭制実施 新規に15校に配置
会員数230名 昨年比16名増

【教育懇談会】 引続きエミールにて

17時30分～19時30分

出席 22名 栄進者出席なし

- ⇒「課題が多いので『元気を失わないように』
のモットーが山場で重要になる(上林新副
会長)」との呼びかけで活発に懇談・情報
交換がなされた。

第2回

7月6日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席35名中 26名

【講話】

「人事考課の実施状況と今後の課題」

奥村誠一 人事部副参事

- ・自己申告書の提出状況 小中は5月中既に9割に達している。100%になろう。
- ・面接 じっくりと意見を聞く機会になったという声が多い。
- ・未提出者 異動希望表明の機会を自ら失う。
7/2以降は不受理
- ・授業観察 方法を工夫されたし。教頭会などで経験交流を願う。
- ・質問 多寡をくくって提出しない例あり。
周囲は注目している。ペナルティはないのか。

直接のペナルティは考えない。あくまでも自発的に提出させることに意味がある。

【会議次第】

司会 6学区 揚村教頭(墨田川)

1. 会長挨拶……………山口会長
2. 都教委の連絡……………主任指導主事
3. 教頭会総会・懇談会会計について
……………千谷・小林会計
4. 9月教頭研究協議会について
……………相川副会長
5. 全国教頭会報告……………近藤全国会長
6. 全国大会の都・研究発表について
……………各研究部長
7. 都教頭会の活動報告(教育庁委員会、
日本教育会、四者協他)……………山口会長
8. 事務局より
9. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事・委員長

【コメント】

- ⇒山口新会長が正式に就任した。
- ⇒開会・閉会の挨拶 情報交換・意見交換の
充実との会長方針により省くこととした。
- ⇒九月教頭研究協議会の役割分担に関する連
絡が多い。
- ⇒学区・学科・研究部の報告に時間をかける
ことができた。

第3回

10月12日(金) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席35名中 29名

【会議次第】

司会 7学区 渡部教頭(忠生)

1. 会長挨拶……………山口会長
2. 都教委連絡……………高野主任指導主事
3. 会計中間報告……………会 計
4. 会計監査報告……………会計監査
5. 全国教頭会報告……………近藤全国会長
6. 四者連絡協議会……………上林副会長
7. 平成13年度行事計画……………上林副会長
8. 今後の予定……………事務局
9. 九月教頭研報告＝主催変更の評価と
研究部活性化の方策の意見交換
……………相川副会長他
10. 学区・学科・研究部の活動報告
……………常任幹事、部長・委員長

【コメント】

⇒高野主任指導主事より議会・教育庁情報

- ・学校運営連絡協議会の実施状況や入試問題
自校作成に関心が強い。
- ・一部の市では市立学校経営健全化が重要課
題。都は市教委を指導している。
- ・横山新教育長の教育庁職員に対する心構え
その他の要望事項の紹介

⇒赤津貞前事務局長の訃報

⇒伊豆群発地震で3校に見舞金計20万円支出。

⇒不時の出勤監察につき、教頭会としての情報
集約と連絡を望む声と教員に不利がある場合
も「自己責任」として、過剰な配慮をすべき
でないとの意見とに分れた。

⇒九月教頭研の件

- ・運営委員会段階で例年にない苦労があった。
- ・高指課の精神的支援があると聞いていたが、
異なる印象を受けた。教頭会をはっきりと
自立すべきだとの意見あり。
- ・教頭会研究部会は長年、教育庁と協力して
進められている、今後もあるべきではな
いとの声が多かった。

⇒会員の異動（10／1） 荒川商 （P55参照）

第4回

13年1月12日（金） 14時30分～17時
於、神楽坂エミール
出席35名中 29名

【講話】

「高校改革の今後の展望」

山際成一 都立高校改革推進担当部長

- ・高校事務室長の経験あり、都立への思いは
強い。都立高校問題が頻出し始めると同時

に教育庁参事となり、この問題と共に歩ん
できた。

- ・改革の核心は「統廃合」ではなく「多様化
への対応」にある。

①個性・独創性を伸ばす。

②人材、特に、リーダーを育成する

ことは今後の重要な課題である。

- ・回顧すると、70～80年代の「荒廃」への対
応が不十分だったことが挙げられる。
- ・行政施策と生徒の教育に分担があるが、学
校の先生には

授業展開の工夫、中高一貫・高大連携

“やり直し”のきく学校作り、難関大学

にも耐えられる生徒の育成

などを、ぜひ、要望したい。

【会議次第】

司会 9学区 町田 教頭（保谷）

1. 会長挨拶……………山口会長
2. 四者連絡会……………上林副会長
3. 特別委員会報告……………特別委員
4. 全国教頭会報告……………全国会長
5. 支部活動費の報告について……………会 計
6. 校長会との話し合いについて……………会 長
7. 事務局からの連絡……………事務局長
8. 次年度への事務引継ぎ……………同次長
9. 学区、学科支部の報告……………常任幹事
10. 研究部会の報告……………部長・委員長

【コメント】

⇒奥井事務局長より年頭と退任予定の挨拶

⇒学区等の役員後任の選任の際、前任の常任
幹事は後任者の所属校長に挨拶するなど、
心遣いをして欲しい。（事務局より）

⇒研究部の今後の研究主題の報告、着眼に優
れたもので取組みに期待したい。

【賀詞交換会】

恒例により会議後に開催。

山際担当部長が質疑応答を続けられたため、
殆ど全員が残り、例年以上に盛り上がった。

緊急総務部会

13年2月3日（土） 14時～16時

於、荻窪高校

教頭会の研究活動を教育庁主催の研修と明確
に区別し、出張など服務上の取り扱いを変更す

る旨、教育庁よりにわかに通知されたため、状況を説明し、今後の対応を協議した。

当日はPTA、地域懇談会その他の行事のある学校が多く、各学区より兼任で1～3名、計13名のみの出席となった。

7. その他の会議

教育庁指導部と役員の話合う会

12月20日（木）高野敬三主任指導主事を事務局にお招きし、学校経営や教頭会の諸活動について率直なお話を頂き、活発に質疑が交わされて有意義な2時間であった。

8. 特別委員会

会 長 山 口 正 光

1. 日本教育会全国役員

東京都支部理事

山口正光（府中） 上林 勇（武蔵野北） 相川鞆彦（第三商）

東京都支部評議員

野口眞幸（南） 塩澤幸雄（代々木） 亦木一彦（田柄） 野志兼夫（高島）
菅又勝雄（忍岡） 楊村洋一郎（隅田川） 渡部静夫（忠生） 浅井康明（福生）
町田 昶（保谷） 中村澄隆（三鷹） 宮崎高一（新島）

2. 同和教育推進協議会委員

3. 都立高等学校基本計画検討委員会・専門部会委員

木嶋智恵（田園調布） 清水武（本所工業） 戸谷賢司（羽田工業） 亦木一彦（田柄）
富田政次（飛鳥） 小暮守雄（鮫洲工業） 小林 勝（松が谷） 浅井康明（福生）
恩田 実（秋留台） 小倉幸夫（東村山西） 手打和昭（第五商）

大森地区単位制高校基本計画をはじめとする11の専門部会に参画。

4. 東京都教職員互助会運営委員

山口正光（府中）

5. 東京都公立高等学校PTA連合会相談役

山口正光（府中）

都PTAのあり方、全国大会の東京都での開催の件など。

6. 東京都教育公務員弘済会（東京支部評議員）

山口正光（府中） 上林 勇（武蔵野北）

7. 東京都教育管理職等連絡会理事

山口正光（府中）

職務上の任務に起因する訴訟の費用の貸付と学校教育の円滑な運営を図る。

事務局は東京都公立高等学校校長協会事務局。

8. 東京都教育管理職等応訴費用貸付審査会委員

上林 勇（武蔵野北）

職務上の任務に起因する訴訟の費用の貸付の可否及び貸付額の審査。

9. 東京都立高等学校入学者選抜に関する懇談会委員

山口正光（府中）

3. 主な活動報告

1. 全国高等学校教頭会

1. 会 合

12年5月12日(金)	監査・本部役員会	東京・事務局	4県	12名
5月26日(金)	第1回全国総務部会	東京・アルカディア市ヶ谷	6県	20名
6月13日(火)	地区研究協議会	" "	47県3市	94名
" "	第1回全国理事研究協議会	" "	47県3市	94名
7月4日(火)	第2回全国総務部会	" "	6県	18名
26日(水)	全国研究部会	神奈川・新横浜プリンスホテル	10県	20名
"	第2回全国理事研究協議会	" "	47県3市	87名
27日(木)				
～28日(金)	総会・研究協議大会	" "	47県4市1,	175名
10月17日(火)	中間監査・本部役員会	東京・事務局	4県	9名
24日(火)	第3回全国総務部会	東京・アルカディア市ヶ谷	6県	18名
11月10日(金)	全国常任理事研究協議会	" "	18県	28名

2. 地区協議会

北海道	①5月18日～19日	苫小牧支部主管	東 海	10月13日	岐阜県主管
"	②11月28日	石狩支部 "	近 畿	10月30日～31日	滋賀県 "
東 北	10月26日～27日	宮城県 "	中 国	(隔年開催につき実施せず)	
関 東	11月9日～10日	栃木県 "	四 国	10月20日～21日	愛媛県主管
甲信越	11月9日～10日	長野県 "	九 州	10月12日～13日	佐賀県 "

3. 刊 行 物

発表資料集	第20号	平成12年7月7日	104頁	2,100部	参加者・文部省・県教委・校長会に配布			
全国要覧	第23号	" 9月11日	51 "	6,100部	会員・文部省・県教委・校長会に配布			
会 報	第58号	" 10月2日	12 "	6,100部	"	"	"	"
研究集録	第25号	" 10月11日	116 "	6,100部	"	"	"	"
大会集録	第37号	" 11月10日	144 "	6,100部	"	"	"	"
調査研究集	第24号	" 11月21日	63 "	6,100部	"	"	"	"
会 報	第59号	平成13年1月10日	16 "	6,100部	"	"	"	"

4. 研 究 発 表

19県24題(東京4題、神奈川3題、北海道2題、15県各1題)

部 門	全 国 大 会	研 究 集 録	計
管理運営	埼玉 東京 奈良 宮崎 神奈川	北海道 高知	7県7題
高校教育	北海道 富山 山口 東京 神奈川	島根 大分 沖縄	8県8題
生徒指導	秋田 香川 東京 静岡 神奈川	茨城 東京 愛知 長崎	8県9題

2. 東京都立高等学校教頭研究協議会

東京都立高等学校教頭会

東京都公立高等学校定通教頭会 共催

本研究協議会は、都高等学校教頭会の20世紀の掉尾を飾るべく、従来、東京都教育委員会指導部主催で開催されてきたが、本年度は都立高等学校教頭会・都公立高等学校定通教頭会の両教頭会による共催で恙なく開催された。

本年度は、来年度から名称が「教職員研修センター」と変わる都立教育研究所で、9月11日（月）に開催された。平成10年度までは午前午後の全日に渡って開催されたのであるが、本年度は、昨年に引き続き13:15～16:30の午後だけの開催となった。六つの分科会の後、教育委員会挨拶、筑波大学教授前全国高等学校長協会会長による新知識の極めて豊富な講話に感銘を受けつつ、充実した半日の研究協議会を終了した。

なお、本年度は私立高校から3名の教頭が本研究協議会に参加した。

本研究協議会を開催するに当たり、下記の日程で、27名の運営委員会が会合し、企画立案を行うとともに、運営上の諸事項も協議した。

- 6月6日（火） 第1回 運営委員会
都立教育研究所
- 7月11日（火） 第2回 運営委員会
都庁第一本庁舎
- 9月7日（木） 第3回 運営委員会
都立教育研究所

実施事項

1. 趣 旨

都立高校改革推進計画を踏まえ、都立高等学校の個性化・特色化を図り、都民の期待に応え得る高等学校教育を推進するため、当面する教育課題について研究協議を行うことにより、教頭としての識見を高め、各都立高等学校の学校運営並びに教育指導の充実に資する。

2. 日 時

平成12年9月11日（月）
13:15～16:30

3. 場 所

都立教育研究所

4. 参加対象 都立高等学校教頭 336名
全日制課程 230名
（副校長・舎監長を含む）
定時制・通信制課程 106名
（副校長を含む）

5. 内 容

中心課題：都民の期待に応える活力ある
都立高校の実現
－開かれた都立高校を目指して－

6. 分科会

当面する教育諸課題について6分科会を
設け、提案に基づいて研究協議を行う。

- 第1分科会 開かれた学校づくり／学校
組織の活性化
- 第2分科会 教頭の職務／開かれた学校
運営
- 第3分科会 新しい教育課程づくり／総
合的な学習の時間の課題
- 第4分科会 チャレンジスクールのねら
い／新教科（情報）教育の
課題
- 第5分科会 健全育成と地域との関わり
- 第6分科会 自己実現を目指す指導／H
R運営と保護者との関わり

7. 全体会

講話を通じて、高校教育の未来を展望し
学校経営に主体的に参画できる教頭として
の識見を高める

(1) 教育委員会挨拶

指導部主任指導主事

加藤 明先生

(2) 講話 「これからの学校づくりの一の 視点」

筑波大学教授

前全国高等学校長協会会長

岡本 裕之先生

(3) あいさつ

東京都立高等学校教頭会

山口 正光

東京都公立高等学校定通教頭会

島田 悦郎

副会長 相川 鞆彦（第三商）記

3. 四者連絡会協議会・四者懇談会

第16回四者連絡会協議会は、平成13年1月16日（火）、午後2時30分より神楽坂エミールに於いて開催された。来賓として都教育庁より、総務部教育情報課長福山敏久、学務部高等学校教育課長大崎徳三朗、学務部都立高校改革推進担当課長吉田憲司、学務部都立高校学校経営担当副参事阿部孝の四名の方々に、お忙しい中をご出席いただきました。各会からの提案事項は次の通りであった。

〔事務長会〕

1. 事務長の職位・職責の位置づけに関して

学校業務全般にわたる意志決定の過程で管理監督者としての重要な責務を負っている。その責任と権限を行使するためにも、全事務長を課長補佐と管理職等に位置づけてほしい。

2. 事務室組織の整備に関して

事務室長校には庶務係と経理係の二係制が設置され、それぞれに係長が配置されているが、事務長校には、一部の学校に経理担当係長が配置されているにすぎない。地域と連携した開かれた学校作りや、学校の自主性、自立性の確立を公平にするためにも、二係制が実施されるまでは全校に経理係長を配置していただきたい。

3. 事務職員定数の適正配置に関して

事務室業務が質的・量的に増えてきている。

私費については公費の会計と動揺に執行に関しての手続き処理をするため、負担が増えている。その上、開かれた学校の推進のための対応が繁雑である。これらの対応充実を図る上においても、事務職員の定数方式を新たな視点で検討していただきたい。当面、嘱託員を文書取扱い校、以外にも学校の事情を考慮の上、配置していただきたい。

〔全日制教頭会〕

近代的な学校運営の適正化と活性化のため、教頭は校長を補佐し日々努力しています。その中で、都立高校についてより良い学校改革を推進するためには、学校における教育諸条件を整備することが必要であると認識いたしております。それとともに教頭職をより魅力あるものに、教頭のモラールアップを図ることが重要であり、次の要望を通して、活力ある都立高校の実現に努力を傾注したい。

1. 教頭の職務について

(1)副校長または教頭複数制について。学校運営の組織化と効率化のため副校長、教頭の機能分担の明確化、及び副校長、複数教頭の計画的な配置。(2)教育委員会内の担当部署の調整による、各種調査項目の整理統合。2. 学校運営等について。(1)主任制の中間管理職への位置づけ。(2)出勤簿に代るIDカードの早期導入。(3)教員の部活動手当の増額。(4)教室の早期冷房化。(5)教頭へのPC配備、インターネットの有効利用の促進。3. 教頭の待遇改善について。(1)研究部の活性化のため、参加の理解と援助。(2)管理職手当15%の早期実現(3)長期在任教頭の退職時の待遇措置。(4)退職後の再雇用（再任用）ポストの確保。

〔定通教頭会〕

1. 定通教職員の充実について。(1)新規採用以来定時制課程に勤務している教員の全日制課程への異動促進。(2)高校改革推進計画に伴う学年学級減による。教員定数減への対応。ア)激変緩和措置。イ)3学級以下の学校へ養護教諭または再任用職員（養護担当）の配置。2. 定通施設設備の充実について。(1)給食室の空調設備の促進。3. 学校運営その他について。(1)IDカードまたはタイムカードの導入。(2)機械警備の導入に伴う施設管理補助員が配置できる予算措置。

〔校長協会〕

1. 新しい高校の創造（今後の都立高校の在り方）。(1)都立高校の現状と課題。(2)これからの高校教育の在り方。(3)魅力ある学校づくりの推進。2. 学校の自主性・自立性（校長の管理運営などの校長権限について）。(1)教育課程の編成・実施。(2)人事。(3)予算。(4)開かれた学校。

各会の説明後に質疑と指導助言に入り、事務長会には抜本的な補助機能の拡大により正確な事務の執行体制を考える必要がある。教頭会は具体的にどこまでではなく、問題意識は同じである。実現に向けて努力する。定通教頭会には学年・学級減による教員定数減に関して、必要以上に減じていない、ご理解いただきたい。

校長協会に対しては、今後教育委員会との両輪で都民に説明できる学校づくりが必要である。それぞれ丁寧なご指導をいただいた。

終了後の懇談会では、教育庁かち横山教育長、

鎌形次長、他12名の部長、課長、副参事の方々に、ご参加いただき、全体で145名が参加した。来年度の教育施策や課題が話題の中心となった。

副会長 上林 勇（武蔵野北）記



4. 学区別支部教頭会報告

1. 第1学区高校教頭会

第1回定例会 大崎高校 出席者20名

平成12年4月20日(木) 14時～17時

1. 会場校 校長挨拶(第2回以降も同じ)
2. 指導部 坂本指導主事、小田指導主事挨拶及び諸連絡(高指課事務分担・異動、文書管理、事故報告集計等)
3. 総務部会報告(教頭異動状況、学区教頭会組織編成、管理職研修等)
4. 協議・情報交換(所属研究部の決定、月例会会場確認等)

第2回定例会 城南高校 出席者18名

平成12年5月18日(木) 14時～17時

2. 指導部 小田指導主事挨拶及び諸連絡(教育管理職研修の日程、宿泊を伴う学校行事等)
3. 幹事会報告(総会・研究協議会の日程等)
4. 協議・情報交換(自己申告書の提出状況及び面接の取組、八潮校の総合学習の時間の取組等)

第3回定例会 八潮高校 出席者19名

平成12年6月15日(木) 14時～17時

2. 指導部 小田指導主事挨拶及び諸連絡(学期末、夏季休業中の指導、職員会議録の開示請求への対応等)
3. 協議・情報交換(面接の取組、授業観察状況等)

第4回定例会 小山台高校 出席者17名

平成12年7月13日(木) 14時～17時

1. 指導部 坂本指導主事挨拶及び諸連絡(総合学習の時間の実施状況、進路指導等)
2. 総務部会報告(奥村副参事の講話「人事考課の実施状況と今後の課題」の概略、全国大会の申込み状況、教頭研究協議会のテーマ等)
3. 協議・情報交換(入学選抜の他学区限度枠、男女枠緩和、出勤監察の状況、四者協等)

第5回定例会 大森高校 出席者18名

平成12年9月21日(木) 14時～17時

2. 指導部 小田指導主事挨拶及び諸連絡(三宅高校の生徒の状況、中途退学者の調査結果等)
3. 協議・情報交換(夏季管外視察、服務・業務監察の状況等)

第6回定例会 羽田高校 出席者19名

平成12年10月19日(木) 14時～17時

1. 羽田総合学科高校(仮称)開設準備室山上校長挨拶及び講話(民間の発想を取り入れた学校経営)
2. 指導部 小田指導主事挨拶及び諸連絡(進路指導、トライ&チャレンジふれあい月間取組可能な活動例等)
3. 総務部会報告(高野主任指導主事の講話の概略、島嶼への見舞金等)
4. 協議・情報交換(授業観察状況、八潮高の総合学習の時間の取組、四者協資料等)

第7回定例会 田園調布高校 出席者17名

平成12年11月6日(木) 14時～17時

2. 指導部 小田指導主事挨拶及び諸連絡(授業日数及び授業時間数の確保、国旗・国歌指導等)
3. 幹事会報告(事業中間報告、中間会計報告、次年度年間行事計画等)
4. 協議・情報交換(授業観察状況、車に関する観察等)

第8回定例会 南高校 出席者18名

平成12年10月19日(木) 14時～17時

1. 会場校 飯島校長挨拶及び講話(自家用自動車の通勤、期末試験終了後の日程)
2. 指導部 坂本指導主事挨拶及び諸連絡(授業日数・授業時間数の確保、通年授業公開等)
3. 協議・情報交換(期末試験終了後の授業等の確保の取組状況、学校運営協議会の試行校の取組)

第9回定例会 雪谷高校 出席者18名

平成13年1月18日(木) 14時～17時

2. 指導部 小田指導主事挨拶及び諸連絡(授業日数・授業時間数の確保、国旗・国歌指導等)
3. 総務部会報告(高指課主任指導主事との意見交換会報告、四者協等)

4. 協議・情報交換(年間行事計画、入学式日程、授業公開等)

第10回定例会 大森東高校(予定)

第11回定例会 芝商高校(予定)

常任幹事 野口 眞幸(南) 記

2. 第2学区高校教頭会

第1回定例会 国際高校

平成12年4月20日(木) 14時～17時

1. 会場校 川島校長挨拶
2. 指導部連絡(文書管理、修学旅行実施、成績証明書発行についてなど)
3. 幹事より(幹事選出について)
4. 情報交換(人事考課、夏期研修視察についてなど)
5. 歓送迎会

第2回定例会 第一商業高校

平成12年5月23日(木) 15時～17時

1. 会場校 山崎校長挨拶
2. 指導部連絡(修学旅行に於ける航空機利用、英語等教育指導員の授業配当時間についてなど)
3. 幹事より(教頭会総会・研究協議会、同和教育研究協議会出席、P連について)
4. 情報交換(夏期研修実施、人事考課についてなど)

第3回定例会 戸山高校

平成12年6月16日(金) 15時～17時

1. 会場校 中田校長挨拶
2. 指導部連絡(「総合的な学習の時間」実施、指導要録・調査書のワープロ作成、職員会議録の開示請求についてなど)
3. 幹事より(教頭会総会など)
4. 情報交換(夏季研修、人事考課についてなど)

第4回定例会 都大附属高校

平成12年7月10日(月) 15時～17時

1. 会場校
2. 指導部連絡(進路指導、水泳事故防止、夏季休業中の生徒指導、特別指導期間中の指導についてなど)
3. 幹事より(職員課長の講話、9月教頭研、全国大会についてなど)
4. 情報交換(全国大会参加、四者連絡会、クラブ合宿についてなど)

第5回定例会 目黒高校

平成12年9月21日(木) 15時～17時

1. 会場校 齋藤校長挨拶
2. 指導部連絡(36協定、授業観察、進路指導、職員会議録の開示についてなど)

3. 幹事より(9月教頭研反省、学区教頭会研修内容についてなど)

4. 情報交換(学校運営連絡協議会、授業観察についてなど)

第6回定例会 駒場高校

平成12年10月9日(木) 15時～17時

1. 会場校 高田校長挨拶
2. 指導部連絡(進路指導、トライ&チャレンジ取組についてなど)
3. 幹事より(学区教頭会研修実施についてなど)
4. 情報交換(授業観察についてなど)

第7回定例会 新宿高校

平成12年11月16日(木) 14時～17時

1. 会場校
2. 指導部連絡(進路指導、授業日数・授業時間の確保、卒業式・入学式における国旗掲揚・国歌斉唱についてなど)
3. 幹事より(「情報」の代替、普通科教頭会研修についてなど)
4. 情報交換(授業観察、教頭研究部会活性化、トライ&チャレンジの取組、特別指導期間中の指導、合同学校説明会についてなど)

第8回定例会 青山高校

平成12年12月7日(木) 15時～17時

1. 会場校 海野校長挨拶
2. 指導部連絡(授業日数・授業時間数確保、通年の授業公開、進路指導についてなど)
3. 情報交換(特別指導期間中の指導、通年の授業公開についてなど)

第9回定例会 松原高校

平成13年1月18日(木) 15時～17時

1. 会場校 西澤校長挨拶
2. 指導部連絡(授業日数及び授業時間数の確保、卒業式・入学式における国旗掲揚・国歌斉唱指導、進路指導についてなど)
3. 幹事より(四者連絡会報告、総務会報告、教頭会の活性化についてなど)
4. 情報交換(PTR総合補償、同窓会組織の在り方、講師任用についてなど)

第10回定例会 桜町高校

平成13年2月8日(木) 予定

常任幹事 塩澤幸雄(代々木)記

3. 第3学区高校教頭会

第1回定例会 鷺宮高校 出席者19名

平成12年4月20日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(指導部事務分担・異動・文書管理・事故報告の作成要領・修学旅行等航空機利用の届け出・周年行事)
2. 常任幹事報告(教頭会関連日程・管理職名簿等)
3. 情報交換(役員人事・健康診断等)

役員 常任幹事 亦木(田柄)
幹事 木村(永福)
星野(富士)
会計 浦岡(杉並工業)

第2回定例会 中野工業高校 出席者17名

平成12年5月18日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(記念誌発行の注意・外国人英語指導員・進路保障・苦情・マスコミ対応)
2. 情報交換(人事考課・機械警備の進展状況・教育課程委員会の構成要員と新教育課程)

第3回定例会 大泉学園高校 出席者19名

平成12年6月15日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(暴走族がらみの被害・大学入学者選抜に伴う調査書の一部変更・春季休業日の終期・総合的な学習の時間等)
2. 常任幹事報告(学区教頭会学事視察案・授業観察評価の観点等)
3. 情報交換(自己申告書の状況・授業公開の現状・住民監査報告等)

第4回定例会 農芸高校 出席者20名

平成12年7月3日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(総合的な学習の時間・休業あけの心のケア・合宿等熱中症の注意・出席簿の男女名の並び調査等)
2. 常任幹事報告(全国大会・学事視察等)
3. 情報交換(出勤監査・授業観察の状況)

第5回定例会 田柄高校 出席者19名

平成12年9月21日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(教務主任研究協議会と新教育課程の取り組み・パソコンによる成績の入力ミス・個人情報の保護・三宅高校生徒の避難状況・早期選考防止と進路保障等)
2. 常任幹事報告(同和教育研究協議会参加報告等)
3. 情報交換(ワングル部の出張の扱い・通年

の授業公開と現状・業務服務監察報告)

第6回定例会 富士高校 出席者19名

平成12年10月19日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(苦情電話教師が6件・国旗・国歌・指導要録・調査書のワープロ作成・宿泊を伴う学校行事の提出期限等)
2. 常任幹事報告(四者連教頭会の要望)
3. 情報交換(自動車通勤監査・36協定・事業観察等)

第7回定例会 大泉高校 出席者12名

平成12年11月16日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(事故報告・通年の授業公開・授業日数・時間の確保・国旗・国歌・記念誌)
2. 常任幹事報告(普通科教頭会研修会・中間会計報告等)
3. 情報交換(自動車通勤監査・機械警備・暴走族関連情報等)

第8回定例会 豊多摩高校 出席者20名

平成12年12月7日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(盗難・授業日数・時間の確保・外国人英語等指導員の配属等)
2. 情報交換(自動車通勤監査・修学旅行下見等の問題点・学校運営連絡協議会等)

第9回定例会 永福高校 出席者20名

平成13年1月18日(木)14時～17時

1. 指導部連絡(保護者からの苦情・学校運営連絡協議会・外国人英語等指導員等)
2. 常任幹事報告(四者連絡協議会・主任指導主事との意見交換等)
3. 情報交換(授業観察・面接・分掌人事・期末試験後の日程・入学式日程等)

第10回定例会 永福高校 出席者20名

平成13年2月8日(木)14時～17時

第四商業高校にて準備予定

学事視察

8月24日(木)、25日(金)

①富山県立雄峰高校－昼間単位制・夜間単位制・通信制課程・専攻科の4教頭と協議。カリキュラム維持の苦労話などを聞くことができた。

②石川県立金沢西高校

石川県で初めての全日制高校。教育課程・授業形態・進路状況・施設など丁寧な説明と内容ある協議が行われた。

学区幹事 星野喜美代(富士)記

4. 第4学区高校教頭会

第1回定例会

平成12年4月20日（木）14時～17時

工芸高校 出席者20名

1. 会場校挨拶 2. 開会、新役員紹介
常任幹事 野志（高島）幹事 樋野（北園）
梶野（城北）
- 会 計 篠田（池袋商）
3. 異動転入者10名紹介
4. 指導部挨拶・諸連絡（4学区担当高橋指導主事）周年行事回答回収）
5. 学区幹事連絡 吉野統括指導主事の講話報告（教頭研修会） 柴崎法務監察課長の講話報告（定例服務監査、出張監査、財務監査、外部監査）研究部連絡係選出
6. 研究部会報告
7. 協議・情報交換 国旗・国歌、自己申告書の提出、面接の実施

第2回定例会

平成12年5月18日（木）14時～17時

王子工業高校 出席者18名

1. 会場校挨拶 2. 指導部挨拶・諸連絡
3. 学区幹事連絡 高野主任指導主事の講話報告（今後の教育の在り方） 日本教育会加入
応訴費用、都総会、全国大会
4. 協議・情報交換（自己申告書、面接、修学
旅行実地踏査）

第3回定例会

平成12年6月15日（木）14時～17時

北豊島工業高校 出席者17名

1. 会場校挨拶 2. 指導部挨拶・諸連絡
3. 研究部会報告 4. 協議・情報交換
（調査書、進路関連、機械警備）

第4回定例会

平成12年7月13日（木）14時～17時

竹早高校 出席者18名

1. 会場校挨拶
2. 指導部挨拶・諸連絡（出席簿の様式調査）
3. 学区幹事連絡 奥村人事部副参事の話（自己申告書の内容、面接、授業観察、自己申告書未提出者）
4. 協議・情報交換（授業観察、卒業生の事故に対する報道関係の対応、住民監査請求、早期選考、外国人講師）

第5回定例会

平成12年9月21日（木）14時～17時

向丘高校 出席者19名

1. 会場校挨拶
2. 指導部挨拶・諸連絡（出席簿の様式調査）
3. 協議・情報交換（進路指導三局要請早期選考、授業観察、四者協）

第6回定例会

平成12年10月19日（木）14時～17時

小石川高校 出席者18名

1. 会場校挨拶 2. 指導部挨拶・諸連絡
3. 学区幹事連絡 高野主任指導主事の話（都議会・文教委員会・教育委員会動向 横山教育庁の考え） 4. 協議・情報交換（暴走族による事故のマスコミ対応、進路保証、春季休業日の終期の取り扱い）

第7回定例会

平成12年11月16日（木）14時～17時

豊島高校 出席者19名

1. 会場校挨拶 2. 指導部挨拶・諸連絡
3. 学区幹事連絡 4. 研究部会報告
5. 協議・情報交換（授業観察、出勤監査車通勤、スト対策、自己申告書、研究協議会の在り方、授業日数の確保）

第8回定例会

平成12年12月14日（木）14時～17時

文京高校 出席者19名

1. 会場校挨拶 2. 指導部挨拶・諸連絡
3. 研究部会報告 4. 協議・情報交換（業務・服務監査、親睦旅行、四者協）

第9回定例会

平成13年1月17日（木）14時～17時

城北高校 出席者19名

1. 会場校挨拶 2. 指導部挨拶・諸連絡
3. 学区幹事連絡 山際都立高校改革推進部長の話（高校改革の核心、これからの教育システム） 4. 協議・情報交換（授業観察拒否者、2回目の授業観察、自己申告書面接、指導要領移行、特別指導期間の取り扱い）

第10回定例会（予定）

平成13年2月8日（木）北園高校

第11回定例会（予定）

平成13年3月13日（火）桐ヶ丘高校

4学区常任幹事 野志 兼夫（高島）記

5. 第5学区高校教頭会

5学区教頭会は普11、工3、商2、商・家1、コース1、総合1で、蔵前工、晴海総合高校に各2名の教頭を配し、計21名で構成する。

出席率は平均80%と全員が顔をそろえることは少ないが、配布資料等は欠席者にきちんと届けられ、連絡を密にしている。さらに教頭の研修の場として、会場校の校長先生のご講話を頂き、資質向上に務めている（今年度2回）

第1回定例会 平成12年4月20日（木）

足立工業高校 出席者20名 14時～17時

1. 会場校 塚越校長挨拶
2. 都教委諸連絡（学区担当、事務分担、報告すべき事項と主管課長と状況報告書作成要項、周年行事、事故報告集計、文書管理、宿泊を伴う学校行事の実施報告について）
3. 総務部会報告（法務監察課長の話の概要、11年監察結果報告、事案決定の教員起案の指導、12年度業務・服務監察、出勤監査、服務監査、住民監査請求について）
4. 教頭、自己紹介
5. 研究協議（自己新作書、国旗掲揚、国歌斉唱状況、メーデー当日の日程、学校運営連絡協議会）
6. その他（教頭会会計、決算報告）
7. 役員選出、常任幹事・管又（忍岡）、幹事・松本（白鷗）、幾部（足立東）

第2回定例会 平成12年5月18日（木）

淵江高校 出席者15名 14時～17時

1. 会場校 須永校長挨拶
2. 都教委諸連絡（事故等報告、教育管理職研修、教務主任研日程、周年行事記念誌発行、宿泊を伴う学校行事、11月11日の合同説明会、教科「情報」専任教員について）
3. 幹事会報告（総会・研究協議会等）
4. 研究協議会（自己申告書、面接）

第3回定例会 平成12年6月15日（木）

日本橋高校 出席者17名 14時～17時

1. 会場校 櫻川校長挨拶
2. 都教委諸連絡（事故報告、総合的な学習の時間、春季休業日終期、職員会議会議録の開示請求対応、海外修学旅行、指導要録と調査書のワープロの作成）
3. 情報交換（機械警備の各校取組、部活等）

第4回定例会 平成12年7月13日（木）

足立東高校 出席者19名 14時～17時

1. 都教委諸連絡（事故報告集計、件数増加、バイク事故、盗難事件、総合的な学習の時間実施状況・学期末・夏季休業中の指導、進路指導の徹底「事業主の皆様へ」「三局要請文」「早期選考の防止の徹底」通知文、外国人英語等指導員の授業配当時間の増額申請）
2. 総務部会報告（都教委交流協議会等について）
3. 研究協議会（「人事考課評価者訓練ビデオ」による研修、教頭研修会でのビデオを再度、視聴意見交換。授業観察について各校状況）

第5回定例会 平成12年9月21日（木）

台東商業高校 出席者14名 15時～17時

1. 会場校 北尾校長挨拶
2. 都教委諸連絡（事故等報告、進路指導、国立市立小の教員処分、「情報」現職教員等講習会）
3. 研究協議（教頭研究協議会を実施して今後の課題、準備段階、当日の運営、全体会、私立高参加等）

第6回定例会 平成12年10月19日（木）

足立新田高校 出席者16名 15時～17時

1. 会場校 鈴木校長挨拶
2. 都教委諸連絡（ボランティア部の実態調査、有無、家庭科以外で保育、介護を実施している高校）
3. 総務部会報告（学校間連携、独自入試、学校経営の健全化、学校運営連絡協議会、授業観察状況）

第7回定例会 平成12年11月19日（木）

足立西高校 出席者19名 14時～17時

1. 会場校 米沢校長の講話「人材育成を如何に進めるか」、管理職として教員の人材を育成を図るポイントについて30分、話され質疑した。
2. 都教委諸連絡
3. 幹事会報告
4. 5学区合同説明会（12月3日）の打合せ（会場図、準備、当日の役割分担等について）

第8回定例会 平成12年12月7日（木）

青井高校 出席者17名 15時～17時

1. 会場校 岩脇校長挨拶

2. 都教委諸連絡（事故等の報告、授業日数及び時間数の確保、卒業式、入学式の国旗掲揚、国歌斉唱指導、進路指導、通年の授業公開、外国人英語指導員の配置）
3. 研究協議・情報交換（5学区合同説明会報告・参加者1,347名、授業日数の確保）

第9回定例会 平成13年1月18日（木）

熱海総合高校 出席者19名 14時～17時

1. 都教委諸連絡
2. 今成校長の講話「21世紀の教育と教頭のあり方」を行った。（質疑応答含め45分間）
3. 研究協議（機械警備の各校の現状）
4. 総務部会連絡（来年度当初予定）

常任幹事 菅又勝雄（忍岡）記



6. 第6学区高校教頭会

第6学区は30名と大所帯であり、課題も、開設準備、募集停止、閉校、高校改革と様々である。画一的な情報交換を避け、各時期に発生する重要な課題について優先して問題点、解決策等の情報交換を行い教頭会の結束を図った。

第1回定例会 本所工業 出席者27名

平成12年4月20日（木）14時～17時

1. 指導部：茂泉・間瀬指導主事挨拶
2. 新役員紹介：常任幹事 揚村、幹事 栗原・吾妻、会計 竿田、会計監査 鹿目
3. 学区幹事連絡・報告（管理職研修、法務監察課長講話、諸資料配布、入試懇談会、年間会費、幹事会）
4. 指導部連絡・報告（入学式、時間割、高指課等名簿、周年行事、文書管理他）
5. 新任紹介（隅田川、隅田川堤、葛飾野、深川、城東、江戸川、葛飾商業、江東商業、向島工業、墨田工業、深川商業）
6. 協議・情報交換（人事考課取組、研修視察）

第2回定例会 水元高校 出席者28名

平成12年5月18日（木）14時～17時

1. 指導部連絡（総合的な学習の時間、企業訪問、情報・福祉免許取得）
2. 学区幹事連絡・報告（総会・研究協議会、応訴費用）
3. 情報交換（自己申告面接時間、研修視察、監査情報）

第3回定例会 葛西南高校 出席者22名

平成12年6月15日（木）14時～17時

1. 指導部連絡（事故報告、夏季休業中の指導、職員会議録の開示請求）
2. 学区幹事連絡・報告（自己申告書の扱い）
3. 協議・情報交換（機械警備、自己申告書、調査書起案、中学の進路説明会扱い、生徒の事故報告）

第4回定例会 小岩高校 出席者20名

平成12年7月13日（木）14時～17時

1. 指導部連絡（教務主任研究協議会、夏季休業中の生活指導、指導要録・調査書の記入）
2. 学区幹事連絡・報告（教頭研究部会、人事考課、教頭全国大会他）
3. 協議・情報交換（副校長・教頭複数制の拡大、学校予算の弾力的運用、PTA活動、学校運営連絡協議会）

第5回定例会 向島商業高校 出席者27名

平成12年9月21日（木）14時～17時

1. 指導部挨拶・連絡（早期選考防止、国立市立小問題、フリーカー問題、中途退学者、職員会議の開示請求、交通安全教育）
2. 学区幹事連絡・報告（視察報告、同和教育研究協議会報告、6学区合同説明会）
3. 情報交換（恐喝事件、上級学校訪問、悪戯電話、人事考課、36協定、合同説明会）

第6回定例会 隅田川高校 出席者27名

平成12年10月19日（木）14時～17時

1. 指導部挨拶・連絡（生活体験発表会、中退者数、交通事故増、国旗・国歌、就職報告書）
2. 学区幹事連絡・報告（会務報告、出勤監査、春季休業日の終期）
3. 協議・情報交換（自己申告書、授業観察、自動車通勤、恐喝事件、6学区説明会）

第7回定例会 東高校 出席者25名

平成12年11月16日（木）14時～17時

1. 学区幹事連絡・報告（会務報告、出勤監査、地震の備え、11月17日のスト状況、監査の状況）
2. 指導部挨拶・連絡
3. 協議・情報交換（都合同説明会、人事考課、マラソン大会の医者の費用の扱い）

第8回定例会 小松川高校 出席者27名

平成12年12月11日（木）14時～17時

1. 指導部挨拶・連絡（授業日数・時間、国旗国歌、授業公開、心の東京革命）
2. 学区幹事連絡・報告（会務報告、出勤監査、幹事会報告）
3. 協議・情報交換（授業日数・時間数確保、生活指導状況、交通事故防止教育の実施）

第9回定例会 本所高校 出席者25名

平成13年1月18日（木）14時～17時

1. 学区幹事連絡・報告（会務報告、4者協、人事考課、教育課程届、新学習指導要領移行措置、学区制）
2. 指導部連絡（授業日数・時数の確保、国旗国歌、進路指導、授業公開、学校運営連絡協議会、都教委教育目標・基本方針）
3. 協議・情報交換（入学式日程、考査後の扱い、自動車通勤、自己申告書提出日）

第10回定例会 南葛飾高校 予定

第11回定例会 葛飾商高校 予定

常任幹事 揚村洋一郎（墨田川）記

7. 第7学区高校教頭会

第1回定例会 平成12年4月20日(木)

片倉高校 出席者20名

1. 佐藤校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡
文書管理の徹底、等について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

入学選抜の改善等の要望、人事考課(自己申告書・面接)、入学式・卒業式、授業公開実施状況、等について

第2回定例会 平成12年5月18日(木)

八王子労政会館 出席者20名

〈多摩地区全日制教頭会 第1回定例会〉

総会(役員選出、事業計画、予算等)

1. 幹事会報告 2. 情報交換

全国教頭会(神奈川)参加、進級規定、等について

臨時会 平成12年5月22日(月)

南多摩高校 出席者20名

人事考課について(面接・業績評価等)

講師: 甲田充彦校長

第3回定例会 平成12年6月15日(木)

南多摩高校 出席者20名

1. 甲田校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡

指導要録のワープロによる作成(不可)等について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

指導要録の作成、機械警備、人事考課(自己申告・授業観察)、部活動費増額申請、新教育課程(卒業単位)、等について

第4回定例会 平成12年7月13日(木)

第二商業高校 出席者20名

1. 白鳥校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡

進路指導(就職者早期選考)、周年行事(記念誌発行)、等について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

人事考課(授業観察)、中学生の学校見学の状況、等について

多摩地区教頭会 夏季研究協議会

平成12年8月24日(木)~25日(金)

福島県立清陵情報高等学校、福島県立福島東高等学校の視察及び研究協議

第5回定例会 平成12年9月21日(木)

八王子業高校 出席者20名

1. 殿前校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡

国立市立小学校教員の処分、中途退学者調査結果、について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

研究部活性化、多摩地区夏季研究協議会報告、総合的学習の時間(履修方法)、授業公開(形態等)、等について

第6回定例会 平成12年10月19日(木)

山崎高校 出席者20名

1. 佐藤校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡

国旗、国歌の取り組み、期末日程、春季休業日の終期等について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

新教育課程の取り組み、四者連絡会資料の検討、機械警備、サービス(自動車通勤)、等について

第7回定例会 平成12年11月16日(木)

八王子北高校 出席者20名

1. 山口校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡

新教育課程(分割履修等)、等について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

サービス(自動車通勤)、総合的学習(設定方法等)、職員会議録の開示請求、等について

第8回定例会 平成12年12月7日(木)

八王子労政会館 出席者20名

〈多摩地区全日制教頭会 第2回定例会〉

講演「人と人とのふれあい

—心の時代に今大切なこと—

講師: 毒蝋三太夫氏

1. 幹事会報告 2. 協議・情報交換

サービス(自動車通勤等)、期末日程、授業公開、等について

第9回定例会 平成13年1月18日(木)

館高校 出席者20名

1. 大須賀校長挨拶 2. 指導部挨拶・連絡

交通事故防止、大島南高校の訴訟、国旗・国歌の実施、等について

3. 幹事会報告 4. 協議・情報交換

入学式の日程、期末日程の取り組み、四者連絡会報告、自動車通勤、等について

第10回定例会 平成13年2月8日(木)

松が谷高校 予定

第11回定例会 平成13年3月14日(木)

町田工業高校 予定

常任幹事 渡部静夫(忠生)記

8. 第 8 学区 高校教頭会

第 1 回定例会 秋留台高校 出席者21名

平成12年 4 月20日（木）14時～17時

1. 会場校細谷校長挨拶 2. 常任幹事＜福生高校浅井＞挨拶 3. 各校教頭自己紹介
4. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
5. 総務部会・研究部会報告
6. 協議・情報交換：人事考課制度導入における取組、卒業式・入学式の状況、生徒転入に関する条件等

第 1 回定例会 八王子労政会館 出席者21名

平成12年 5 月18日（木）15時30分～17時

1. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
2. 第 1 回幹事会（5／11）報告
3. 協議・情報交換：総会（6／8）に向けて

第 3 回定例会 農林高校 出席者21名

平成12年 6 月15日（木）14時～17時

1. 会場校小野里教頭挨拶 2. 常任幹事挨拶
3. 都教委からの報告・連絡
4. 研究部会報告
5. 協議・情報交換：多摩地区夏季研修会（8／24、25）、全国教頭会（7／27、28）、就職希望者の会社訪問について、合同合宿の引率者の人数について、自己申告書の提出及び面接の実施状況、部活動の増額申請について、機械警備の導入における問題点、サービス（自動車通勤、休日の家庭訪問）について

第 4 回定例会 昭和高校 出席者20名

平成12年 7 月13日（木）14時～17時

1. 会場校山畑校長挨拶 2. 常任幹事挨拶
3. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
4. 総務部会・研究部会報告
5. 協議・情報交換：四者連絡協議会資料、野球部公式戦の応援教員のサービスの扱い、学校見学会・説明会について、「総合的な学習の時間」の扱いについて

第 5 回定例会 拝島高校 出席者22名

平成12年 9 月21日（木）14時～17時

1. 会場校堂山校長挨拶 2. 常任幹事挨拶
＜三宅高校佐々木教頭の紹介＞
3. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
4. 総務部会・研究部会報告
5. 協議・情報交換：多摩地区教頭会夏季研究協議会について、教頭研究協議会（9／11）

の運営のしかた・内容についての意見交換
授業観察、授業公開の取組状況、大雨（9／12）の各校の状況、予備校（ING）からの学校説明会への出席依頼の扱い、三宅高校の現状報告（佐々木教頭、秋川高岩崎舎監長）

第 6 回定例会 多摩高校 出席者22名

平成12年10月19日（木）14時～17時

1. 会場校楠原校長挨拶 2. 常任幹事挨拶
3. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
4. 総務部会・研究部会報告
5. 協議・情報交換：教頭会研究部会の活性化について、自動車通勤監査について、授業観察の進捗状況

第 7 回定例会 青梅東高校 出席者19名

平成12年11月16日（木）14時～17時

1. 会場校坂本校長挨拶 2. 常任幹事挨拶
3. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
4. 第 2 回幹事会（11／14）報告
5. 協議・情報交換：授業観察の進捗状況、原級留置に関する内規、自動車通勤への対応

第 8 回定例会 八王子労政会館 出席者20名

平成12年12月 7 日（木）14時～17時

1. 常任幹事挨拶
2. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
3. 協議・情報交換：自動車通勤への対応、特別活動期間の扱い

第 9 回定例会 秋川高校 出席者19名

平成13年 1 月18日（木）14時～17時

1. 会場校神保校長挨拶 2. 常任幹事挨拶
3. 総務部会・研究部会報告
4. 教育庁指導部望月指導主事挨拶及び連絡
5. 協議・情報交換：期末考査後の行事予定、入学式の日程、教頭会活性化に向けての来年度の組織づくりについて

第10回定例会 多摩工業高校 予定

平成13年 2 月 8 日（木）14時～17時

常任幹事 浅井康明（福生）記

9. 第9学区高校教頭会

第1回定例会 小西平高校 出席者17名

平成12年4月20日(木) 14時～17時

1. 会場校 鳴海校長挨拶
2. 学区担当市川指導主事挨拶・資料説明(国旗・国歌について、報告すべき事項と主管課長・事故等の報告、宿泊を伴う学校行事、周年行事、車通勤、指導要録、他)
3. 異動者紹介
4. 幹事報告(教頭会総務部会報告、教頭会名簿、連絡網、会費の徴収、普通科教頭会報告、多摩地区教頭会、他)
5. 研究協議(推薦入試枠の拡大、人事考課)

第2回定例会 八王子労政会館 出席者17名

平成12年5月18日(木) 14時～17時

1. 多摩地区都立高等学校全日制教頭会総会(指導部挨拶、連絡 加藤主任指導主事)(事業、決算報告、事業計画、予算、その他)
2. 学区教頭会
3. 研究協議(都教頭会総会、全国教頭会総会)(自己申告書、面接の実施について、指導要録、調査書、通知表の記入について)

第3回定例会 小平南高校 出席者15名

平成12年6月18日(木) 14時～17時

1. 会場校 武田校長挨拶
2. 指導部市川指導主事挨拶・資料説明(事故等の報告、体育活動に起因する事故防止他)
3. 研究協議(面接の実施状況について、機械警備の問題点について、その他)

第4回定例会 東村山高校 出席者16名

平成12年7月13日(木) 14時～17時

1. 会場校 野原校長挨拶
2. 指導部市川指導主事挨拶・資料説明(事故等の報告、水泳・夏季練習中の事故防止、指導要録、調査書の作成、早期選考)
3. 研究協議(教頭会総務会、人事考課、機械整備、通年の授業公開、出勤監査状況)

第5回定例会 東村山山西高校 出席者13名

平成12年9月21日(木) 14時～17時

1. 会場校 藤井校長挨拶
2. 指導部市川指導主事挨拶・資料説明(三宅高校生への対応、国立小学校の状況、個人情報保護、トライ&チャレンジ他)
3. 研究協議(授業観察、機械警備、学校説明

会、総合的な学習の時間について)

第6回定例会 国分寺高校 出席者12名

平成12年10月19日(木) 14時～17時

1. 会場校 佐藤校長挨拶
2. 指導部市川指導主事挨拶・資料説明(交通事故の急増・三宅高校の生徒の状況、周年行事に伴う記念誌の発行他)
3. 研究協議(文化祭、学校説明会情報交換、授業観察実施状況等の情報交換)

第7回定例会 清瀬高校 出席者11名

平成12年11月16日(木) 14時～17時

1. 会場校 山本校長挨拶
2. 指導部市川指導主事挨拶・資料説明(授業日数、授業時間数の確保)
3. 研究協議(授業観察実施状況、期末考査後の機関の対応について)

第8回定例会 八王子労政会館 出席者17名

平成12年12月7日(木) 14時～17時

1. 多摩地区全日制教頭会 第二回定例会 毒蝮 三太夫講演会 指導部連絡
2. 学区教頭会(授業観察、四者連絡会協議会について)

第9回定例会 清瀬東高校 出席者11名

平成13年1月18日(木) 14時～17時

1. 会場校 小澤校長挨拶
2. 指導部市川指導主事挨拶・資料説明(調査書の発行と受験機会、授業日数、授業時間数の確保、卒業式・入学式の国旗掲揚、国歌斉唱指導、通年の授業公開他)
3. 研究協議(13年度の年間行事予定・始業式、通年の授業公開、学校説明会、授業日数、授業時間数の確保他)

第10回定例会

平成13年2月8日(木) 14時～17時に予定していたが2月9日教頭対象連絡会後に変更。

常任幹事 町田 昶(保谷)記

10. 第10学区高校教頭会

当学区では、今年度の新たな教育課題実施に向け、各学校の取組状況を把握し、円滑な学校運営をするために情報交換を積極的に行ない、協議した。その際、学区担当指導主事より指導助言を頂いた。その主なる協議内容等を中心にまとめ、今年1年の軌跡として報告する。

1. 指導部学区担当

大室文之指導主事、上山敏指導主事

2. 転入者 6名

伊藤 清（狛江）、山崎廣道（国立）

松本光正（永山）、和田吉廣（南野）

高橋伯也（府中工業）、後藤哲（農業）

* 農業高校は今年から教頭が複数配置。

3. 教頭会報告

第1回定例会 三鷹高校 出席者16名

平成12年4月20日（木）14時～17時

1. 学校徴収金（修学旅行及びアルバイト代上限設定の件）

2. 自己申告書の当初申告について

3. 学校運営連絡協議会の取組について

第2回多摩地区教頭会 八王子労政会館

平成12年5月18日（木）15時30分～17時

1. 総会・研究協議会について

第3回定例会 調布北高校 出席者11名

平成12年6月15日（木）14時～17時

1. 「情報」及び「服し」現職教員等講習会受講者の受講終了後の取り扱いについて

2. 都立学校新規卒業者の公正な採用選考の実施について

3. 自己申告書の提出状況と面接の進行状況

第4回定例会 農業高校 出席者13名

平成12年7月13日（木）14時～17時

1. 出勤監査（車）について

2. 学校運営連絡協議会試行校（国立、神代、府中西、農業高校）の報告と各校の取組（準備委員会及び運営マニュアルの作成等）

3. 全国教頭会について

第5回定例会 府中高校 出席者13名

平成12年9月21日（木）14時～17時

1. 周年行事に伴う記念誌の発行について

2. 国立市立小学校に対する教育委員会の指導

について

第6回定例会 第五商業高校 出席者12名

平成12年10月19日（木）14時～17時

1. 授業観察の実施状況について

第7回定例会 府中工業高校 出席者12名

平成12年11月16日（木）14時～17時

1. 学期末考査後終業式までの教育活動について（国立市立学校教育改善検討委員会報告）

2. 習熟度及び車通勤に関する監査について

3. 移行措置期間の教育課程の編成について

4. 明日予定されているストについて

5. 機械警備実施について

実施校におけるブロック設定やマスターカード配付及び朝の解錠等

第8回定例会 多摩地区教頭会 出席者13名

平成12年12月7日（木）14時～17時

当学区が担当した教育講演会は、講師の見事な話術に笑いが絶えず、学校現場の厳しい日常を離れつつも教育の原点である人とのふれあいを通した心の教育の重要性を再確認する機会となった。

講師 毒蝮三太夫氏

題目 「人と人とのふれあい

ー心の時代に今大切なことー」

第9回定例会 永山高校 出席者14名

平成13年1月18日（木）14時～17時

1. 学期末考査後から終業式までの取扱いについて（教育委員会から校長にヒアリングと教務主任連絡協議会の連絡内容について説明）

2. 「総合的な学習の時間」における予算措置、特別非常勤講師、時間割編成等について 試行校（稲城）の取組

3. 四者連絡協議会報告と教頭会活性化

第10回定例会 府中東高校 出席者11名

平成13年2月8日（木）14時～17時

1. 年間行事計画について

学期末考査後から終業式までの教育内容

2. 教頭会の今後のあり方について

3. その他

山口正光教頭（府中高校）が東京都立高等学校教頭会会長及び全国教頭会研究部長・常任理事を兼務され、重責を果たされました。また、それらの功勞に対し東京都教育委員会から職員表彰を受けられました。

代表幹事 中村澄隆（三鷹）記

11. 島しょ地区教頭会

島しょ学区教頭会は、大島・大島南（舎監長を含む）・新島・神津・三宅・八丈・小笠原の7校8名で構成しているが、定例会等には大島及び八丈の定時制も参加し、合計10名で行っている。本地区は、地理的環境・交通事情等の理由により、月例会の形で定期的に開催することが困難であり、研修・情報交換の機会が乏しい状況である。教頭が出張・研修等で上京する機会にあわせて、業務の前後に教頭会を開催するよう努力した。

今年度は、都内の高校と同じ諸課題のほかに、島しょの小規模校ならではの新教育課程の編成、出張旅費等の予算関係などが話題となり、有意義な意見交換ができた。また、今年度は、三宅・神津・新島の火山・地震災害があり、緊急避難、防災、災害対策等、各島の現状と各校の対応が逐一情報交換された。

○第1回 5月15日（月） 都研 物理地学実験室：学校運営連絡協議会、新教育課程の編成について。（9名参加）

○6月8日（木） 星陵会館：教頭会総会に合わせて情報交換を行った。（5名参加）

○第2回 7月4日（火） 三田高：三宅島の火山活動、神津島の地震災害、新島の群発地震の情報交換、各島の見通し、災害時の対応について。（8名参加）

○8月1日（火） 八王子：八王子工業高校での特色ある学校づくりについての研修と情報交換、三宅・神津・新島各校の、災害発生時の具体的な対応、その後に続く地域との関係などの紹介、および質問・意見交換。（9名参加）

○第3回 9月11日（月） 都研 31研修室：教頭研究協議会にあわせて、開催した。総合的な学習の時間・教科情報等を中心とした新教育課程、学校運営連絡協議会の実施に向けての取り組みについての意見交換。（9名参加）

○第4回 10月25日（水） 竹早高校・三宅高校（秋川高校内）：三宅高校から一連の災害への対応を紹介、人事考課制度に関して授業観察・面接等についても意見交換、秋川高校での避難生活の状況を視察、今後の緊急災害

に対する備えの重要性をあらためて認識した。

（10名参加）

○第5回 12月2日（土） 小石川高校：管理職研修の日程にあわせて開催。新教育課程及び移行措置、来年度の教育課程の具体的な取り組みについて。（9名参加）

○2月9日（金） 島嶼会館：教頭連絡会が開催されるのにあわせて、情報交換。三宅高校のその後の状況、来年度の教育課程、学区教頭会の開催の見通しなどについて。（7名参加）

火山・地震災害について

三宅島・神津島・新島の火山・地震災害の際には、各島・各校ごとに状況は異なっていたが、緊急事態への対応について大きな経験となり、多くの教訓を残した。

まず、発生後、1～2時間が勝負であるということ。生徒・教職員の安全確認と確保、施設設備の点検、周辺地域の情報収集など、その都度処理していかなければならない。3島では防災無線が大きな情報源となり、役場・住民との情報交換もやりやすい状況であったが、教職員・生徒は緊張状態にあり、落ち着いた行動を確保させることは大変難しいと痛感した。特に、学校の電話は鳴りっぱなし、取材などで同時に回線を占有されてしまうなど、影響が大きいと感じた。そんな中で、人命最優先の迅速な対応と教育庁への報告を的確に行うことが急務であった。

また、他の島・学校の状況也大いに気になる場所であった。そんなときに、大きな威力を発揮したのが携帯電話であった。災害時には回線電話が使いにくくなるため、せめて管理職には必要であると思う。島しょ学区では、教頭同士の連絡に大いに活躍した。災害後も、生徒が避難生活にある時の動静の把握、生活を含めたケアなど、数ヶ月にわたって続いた。危機管理は、そのときどうする、だけでなく、その後の状況も十分考慮して対策を立てておくことが重要である。

最後に、今年度も定例会の開催できたのは、校長会、会場校の格別のご配慮によるものと感謝しております。また、火山・地震災害に際しては、各方面からの多大のご支援をいただき、感謝申し上げます。

常任幹事 宮崎高一（新島）記

12. 多摩地区全日制教頭会

第1回定例会（総会） 8学区担当

平成12年5月18日（木）14時～17時

八王子労政会館 出席者65名

1. 平成11年度代表幹事挨拶及び会員異動紹介

八王子高陵高校 大矢保雄教頭

2. 多摩地区都立高校長会代表幹事挨拶

昭和高校 山畑 仁校長

3. 議事

①平成11年度事業報告・会計報告及び会計監査報告

②平成12年度役員承認・代表幹事挨拶

③平成12年度事業計画案・予算案承認

7学区（代表幹事、統括担当）

8学区（代表、歓送迎会、会計担当）

9学区（夏季研修協議会担当）

10学区（第二回定例会、教育講演会担当）

4. 教育委員会挨拶・連絡 望月昌代先生

5. 報告

①各学区教頭会報告 ②各研究部会報告

③教頭会事務局

6. 各学区教頭会

夏季研究協議会 9学区担当

平成12年8月24日（木）～25日（金）

出席者15名

1. 研究主題

現任校の改革・改善・特色化・個性化を進めるための方策について他県の取り組みに学び、研究協議を深める。

①新しいタイプ（情報系）の高校、普通科高校における進路指導の取り組みについて

②新学習指導要領への対応について

2. 研究視察校

(1) 福島県立清陵情報高等学校

(2) 福島県立福島東高等学校

3. 視察と協議

清陵情報高校は須賀川市にあり、昭和63年に県中地区新設高校として設置された。工業・商業併置の新しいタイプ（情報系）の高校である。全てのコンピュータがインターネットに接続できるという素晴らしい設備を持ち、最先端の情報処理教育の実施、文部省のマルチメディア活用方法研究開発事業の推進を行った。第二種情報処理技術者の資格取得実績

校でもある。高校野球選抜大会出場というユニークさもあるが生徒募集の困難さや、施設設備の維持活用の困難さ等の説明を受けた。

福島東学校は福島市の中心地にあり、平成12年度国公立大学現役合格者 145名という県内トップの進学指導実績のある高校である。進路指導の基礎となる教育課程の工夫、7時間授業、空き時間や自習時間のない完全授業確保に見られる、生徒の進学指導は自分達が支えているという教員の自覚と努力が感じられた。しかし、異動が進むにつれ現在の指導体制の維持が今後の課題であるとのことであった。

第2回定例会 10学区担当

平成12年12月17日（木）14時～17時

八王子労政会館 出席者65名

1. 代表幹事挨拶

2. 多摩地区都立高校長会代表幹事挨拶

昭和高校 山畑 仁校長

3. 講演 「人と人とのふれあい

—心の時代に今大切なこと—

講師：毒蝋三太夫氏

〈講演要旨〉ウルトラマンのテーマにのって登場、ラジオやテレビから流れるいつもの明るくメリハリのある口調で講演が始まる。若い頃は先生になりたかったこと。自身の生い立ちに触れ、生まれ育った下町の人情の厚さが人々の成長と生活を支えていたこと。今忘れられつつある誰にでも「気を使う」ことの大切さ。又、現在客員教授として大学で行っている授業の経験から「大学生は何んでも知っていると思ったら大間違い」と若者の常識・規範意識や生活力の低下等を指摘した。現代の人間関係の希薄さ、親や社会の持つ教育力が低下している現代、お互いに気を使い、心の通う人間のつながりを取り戻さなければならないと強調された。高齢者社会が近づいている中、「ババア」は元気があるので、今度は「ジジイ」を元気にすると激励があり、和やかな内に講演が終了した。

4. 教育委員会挨拶・連絡 望月昌代先生

5. 報告

①各学区教頭会報告 ②各研究部会報告

③教頭会事務局

多摩地区代表幹事 渡部静夫（忠生）

5. 学 科 別 支 部 教 頭 会 報 告

1. 普通科高校教頭会

1. 普通科教頭幹事会

平成12年 5 月25日（木）エミール
15時30分～17時00分

議 事

- (1) 平成11年度 事業・決算・監査報告
- (2) 平成12年度 役員推薦
- (3) 平成12年度 事業計画・予算案
- (4) 平成12年度総会役割分担等を検討

2. 普通科教頭会総会

平成12年 6 月 8 日（木）星陵会館
13時30分～14時30分

議 事

- (1) 平成11年度 事業報告
- (2) 平成11年度 決算および監査報告
- (3) 平成12年度 役員選出
- (4) 平成12年度 事業計画
- (5) 平成12年度 予算承認
- (6) その他

3. 会員異動

平成12年 3 月31日付

退職者 8 名

平成12年 4 月 1 日付

校長栄進者 14名

全日制からの転任者 21名

定時制からの転任者 15名

新任者 19名

休職者 0 名

4. 研修会

内容 講演会

日時 11月24日（金）
15時30分～17時00分

会場 エミール

演題 「魅力ある指導者」

井浦コミュニケーションセンター
所長 井浦 康之氏

◎講師の経歴をみると

学歴 英語専門学校卒、琉球国際大中退

職歴 日立製作所 勤務

日本高圧コンクリート(株) 常務

ホームケア・ジャパン 営業部長

その他

と多種の業界で活動し、能力開発センター所長も経験、現在、活発に執筆活動を行っているなど、異色の人物である。

◎講演内容の1例

- ・人事考課が都内公立学校で始まったと聞く。これは人材育成にぜひとも必要である。
- ・「プロ意識を持て」とは、現在、多くの民間企業でのモットーである（学校でもそのようにして欲しい）
- ・よく「人材」と言われるが、これはどのような人を指すのか？
答；「給料以上の働きをする人」を指す。
- ・5段階評価について
5段階の社員がいるから必要なのである。
- ①人財 いなくてはならない人
- ②人在 いなより、いる方がよい人
- ③人罪 どちらでもよいという罪な人
- ④人災 いなの方がましな人
- ⑤人災の下 いて貰っては困る人

（感想）

- ・各校とも多忙なため、出席者は18名と少なかった。
- ・しかし、教員の指導ばかりでなく、生徒へのキャリア教育にも良い教材となるような点が多く、充実した講演であった。
- ・年1回の行事です。次回は皆さん奮ってご参加下さい。

普通科幹事長 上林勇（武蔵野北）記

2. 工業高校教頭会

都立工業高等学校28名（定時制独立校及び科学技術高校を含む）34名の教頭で構成されている。本会の主たる目的は、都教委の指導・校務の連絡や協議・調査研究・類似校や企業の見学・情報交換・会員相互の親睦である。

本年度より6校（世田谷工高、工芸高、蔵前工高、向島工高、八王子工高、小金井工高）において、全日制教頭が複数（2名）となった。人数が増加したことは、当会の活動に歓迎すべきことではあるが、定例会や学事視察等で複数制の学校から2名の参加はほとんど得られなかった。教頭が2名とも会に参加することは当然容易でないことは理解できるが、仕方がないことなのだろうか。

役員の構成は会長・副会長1、庶務幹事2、会計幹事2、工業校長会連絡幹事1である。

研究組織は、管理運営研究部会、工業教育研究部会、生徒指導研究部会の3部会からなっている。

平成12年度の活動状況は以下のとおり。

第1回定例会（兼総会）

平成12年4月25日（火）14時～17時

千石会館

- 総会：1. 会員異動及び新任会員紹介 2. 平成11年度事業・会計報告 3. 役員改選
4. 新会長挨拶（葛西工高・逆井萬吉教頭）
5. 平成12年度事業計画・予算案の審議
例会：1. 会長挨拶 2. 総務部会報告
3. 協議：研究部の構成員と部長選出、都立高校PR委員選出（萩原、田村、鹿目、間宮）
4. 情報交換：歓送迎会

第2回定例会

平成12年5月25日（木）14時～17時

総合技術教育センター

1. 会長挨拶・幹事会報告 2. 指導部連絡
3. センター連絡 4. 協議：夏季管外視察の計画について
5. 情報交換 6. 各部研究協議

第3回定例会

平成12年6月22日（木）14時～17時

総合技術教育センター

1. 会長挨拶・幹事会報告 2. 指導部連絡
3. センター連絡 2. 協議：工業技術の祭典、夏季管外視察の検討 5. 情報交換 6. 各部研究協議

第4回定例会

平成12年7月17日（月）15時～17時

神楽坂エミール

1. 会長挨拶・幹事会報告 2. 指導部連絡
3. 協議：夏季休業中の行事業務と役割分担、夏季管外視察の検討 4. 情報交換 5. 各部研究協議 5. 懇親会

第5回研究協議会及び管外視察

平成12年8月24日（木）～25日（金）

神楽坂エミール

1. 企業視察：日置電気株式会社

各種科学測定機器メーカーである。工業高校における実習授業で生徒が常に使用している機器である。製造行程や展示品の見学・説明、質疑応答などを行った。（長野県上田市）

2. 学校視察：長野県立松本工業高等学校

歴史の古い地方の工業高校であるが、施設・設備は一部を除けば、都立工業高校の20年前の水準とほぼ同じであった。しかし、大学への進学率が60%を超え、特別活動も活発である。生徒の実態・教育課程等の質疑応答を行った。

3. 企業見学：セイコーエプソン株式会社

IT産業の先端をいく企業で、パソコン連動用プリンターの製造工程を見学した。ライバル企業との競争にいかにか勝つか、分刻みで変わる最新の科学技術の進展に、民間企業の厳しさを感じた。基礎・基本を重視することにより、新しいものにとっても追いついていけない現在の工業教育の内容との比較が論じられた。また、前記『日置電気』も同様であるが、工業高校卒の生徒を求人の対象から除外していることが気になった。（長野県松本市）

4. 各部会研究中間発表

24日夜、松本市の宿舎において、以下のように各研究部会の中間発表と質疑を実施した。
管理運営研究部会：工業高校の個性化、特色化を目指す学校経営、工業教育研究部会：新しいタイプの学校における工業教育、生徒指導研究

第6回定例会

平成12年9月28日（木）14時～17時

総合技術教育センター

1. 会長挨拶・幹事会報告
2. 指導部連絡
3. 協議：東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会、計算技術検定について
4. 情報交換
5. 各部研究協議

第7回定例会

平成12年11月24日（金）14時～17時

総合技術教育センター

1. 会長挨拶・幹事会報告
2. センター連絡
3. 協議：東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会、計算技術検定について
4. 情報交換
5. 各部研究協議
6. 研究成果発表大会の準備

第8回定例会

平成12年12月22日（金）14時～17時

神楽坂エミール

1. 会長挨拶・報告
2. 協議：生徒研究成果発表大会、計算技術検定等のあり方、人事考課制度と教頭の職務について
3. 情報交換
4. 各部研究部の発表と質疑
5. 懇親会

第9回定例会

平成13年2月15日（木）14時～17時

総合技術教育センター

1. 会長挨拶・総務部会、四者連絡会協議会報告
2. 指導部連絡
3. センター連絡
4. 協議：研究部発表資料の取扱、平成13年度当会役員選出
5. 情報交換
6. 研究部会

第10回定例会

平成13年3月15日（木）14時～17時

神楽坂エミール

1. 会長挨拶・幹事会報告
2. 指導部連絡
3. センター連絡
4. 協議：今年度当会の反省と来年度の事業計画、研究部発表資料の取扱、平成13年度当会役員確認
5. 情報交換
6. 懇親会

工業科常任幹事 逆井萬吉（葛西工）記

3. 商業高校教頭会

商業関係教頭会は、23校の教頭24名で構成され、原則として毎月第4木曜日に定例会を開催している。会場は各校持ち回りで、都教委から高田憲一指導主事、総合技術教育センターからは高橋雅信経営・流通システム科長に出席をいただき、ご指導・ご助言を賜っている。

定例会では、都教委からの連絡並びに報告、諸課題に関する研究協議や情報交換等を行っている。この他に、「全国高等学校教頭会総会・研究協議大会」や「関東地区商業関係高等学校教頭研究協議会」に参加するとともに、全国商業教育研究大会に座長5名を派遣し、「産業教育フェスティバル」に参加協力した。

また、教頭会を通して、相互に研修を深め、教頭としての資質向上を図るとともに、円滑な校務処理を行うための機会とすることに努めてきた。しかしながら、年度途中で3校（牛込商、市ヶ谷商、荒川商）の教頭が異動になるという波乱の年であった。そのためか全員が出席する会合を一度も持てなかったことは残念であった。

平成12年度の活動概要は、下記のとおりである。

第1回定例会

平成12年4月25日 午後2時 赤坂高校

1. 都教委・総合教育センターからの連絡
2. 平成12年度人事異動に伴う商業関係教頭会の組織編成の決定
3. 平成12年度活動方針や年間計画の決定
4. 情報交換
 - ① 週休日の出張の扱いについて
 - ② 商高連の大会におけるクラブの引率の扱いについて
5. 例会の中で、北海道の有珠山噴火に伴う修学旅行のコース変更をどうするか話題になった。

第2回定例会

平成12年5月25日 午後2時 第二商業高校

1. 都教委・総合技術教育センターからの連絡
2. 都教頭会幹事会報告
3. 商高連、商P連、都商研の連絡報告
4. 情報交換

- ① 自己申告書の提出状況について
- ② 教科「情報」の受講について
- ③ 出勤監察について
- 5. 今年度から導入された教員の「自己申告書」についての各校の取り組み状況が、話題になった。

第3回定例会

平成12年6月22日 午後2時 第三商業高校

- 1. 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- 2. 関東地区商業教頭研究協議会発表者連絡
- 3. 商業校長会からの依頼連絡
- 4. 情報交換
 - ① 「総合的な学習の時間」の各校の取り組みについて
 - ② 平成12年度全国商業教育研究大会の座長候補者の入選について
 - ③ 「自己申告書」の取り組み状況について
- 5. この会においても教員の「自己申告書」の各校の取り組み状況が話題になり、各校教頭の取り組み努力が報告された。

第4回定例会

平成12年7月17日 午後3時 第四商業高校

- 1. 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- 2. 全国教頭会参加連絡
- 3. 情報交換 自己申告書と関東地区商業教頭研究協議会について

全国高等学校教頭会総会・研究協議大会

日 程 平成12年7月27日から28日

場 所 横浜

参加者 都商頭会 7名

第5回定例会

平成12年9月28日 午後2時 第五商業高校

- 1. 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- 2. 関プロ大会の発表者決定報告
- 3. ① 就職の早期選考について
 - ② 産業フェスティバルについて
- 4. 商業関係の学校では、進路指導上就職指導は大切であり、関心を持っている問題でもあるので、活発な話し合いとなる。

第6回定例会

平成12年10月26日 午後2時 晴海総合高校

- 1. 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- 2. 都教頭会総務部会報告
- 3. 新教育課程の編成と進捗状況について

第7回定例会

平成12年11月24日 午後1時 赤坂高校

- 1. 都教委・総合技術教育センターからの連絡
- 2. 及び教頭会報告
- 3. 情報交換 平成13年度年間行事計画案の特別指導期間について

第8回定例会

平成12年12月19日 午後2時 池袋商業高校

- 1. 来年度の関プロ教頭研究協議会（東京大会）の日程と場所を決定する。

第9回定例会

平成13年1月25日 午後2時 台東商業高校

- 1. 来年度の関プロ教頭研究協議会（東京大会）
- 2. 来年度の商業関係教頭会の幹事候補者の選任と在り方について

商業科常任幹事 三木準一（上野忍岡）記



4. 農業高校教頭会

農業教頭会は、農業に関する学科を設置している園芸高校、農芸高校、農産高校、農業高校、農林高校、瑞穂農芸高校、大島高校、三宅高校、八丈高校の9校の全日制教頭で構成している。今年度の幹事長（兼常任幹事）は佐々木孝志（農芸高校）、幹事は河上正道（瑞穂農芸高校）がその任に当たった。

農業教頭会の平成12年度における活動は以下のとおりである。

- 第1回 4月24日（月）瑞穂農芸高校
- 第2回 5月16日（火）農業高校
- 第3回 6月22日（水）農芸高校
- 第4回 7月17日（月）農芸高校
- 第5回 9月12日（火）瑞穂農芸高校
- 第6回 10月30日（月）農林高校
- 第7回 11月30日（木）農産高校
- 第8回 12月14日（木）農芸高校
- 第9回 1月15日（月）瑞穂農芸高校
- 第10回 2月13日（火）農業高校
- 第11回 3月17日（土）瑞穂農芸高校

なお、各回とも次のような内容で教頭回を実施した。

- ① 開催校校長挨拶
- ② 都教育委員会からの連絡・指導
- ③ 報告・幹事会報告
- ④ 協議
- ⑤ 情報交換
- ⑥ その他

各回での主な協議内容を次に示す。

〔第1回〕

- ① 昨年度の反省について
- ② 今年度の役割分担について
- ③ 今年度の教頭会の内容とスケジュール

〔第2回～9回〕

- ① 平成13年度学校農業クラブ関東大会の実施について

平成13年度の学校農業クラブ関東大会は、園芸高校を中心に、東京都で開催される。現在農業クラブ加盟校が、全日制は園芸・農芸・瑞穂農芸・八丈の4校、農林・農産の定時制であるが、この大会を契機に、加盟校を増やすことを検討し、関東大会は全農業高校が一堂となって協力体制を組むこととなった。その結果、平成

13年度から農産高校・農林高校の2校が全校加盟を決定した。

② 新教育課程への取り組み

新教育課程の編成について、各校の進展状況を情報交換するとともに、新しい情報について、都教委や都の教育課程委員会を通じて情報提供、指導をいただいた。2月には教頭会が音頭をとって、都の教育課程編成基準についての勉強会を実施した。

③ 農場主任会議の活性化

昨年度から農場主任会議を開催し、各学校の運営に農場主任を積極的に参画させ、活性化をはかってきた。今年度は、定例化をはかり、研究活動の充実を目指したが、時間の関係で学期毎の開催にとどまった。教頭会としての役割として如何に農場主任を活用するかが課題であることを確認した。

〔第3回～第8回〕

- ① 東京都立高等学校合同説明会への参加について

今年度から、都産業教育フェスティバルが取りやめとなったが、それに代わる行事として、東京都立高等学校合同説明会が実施されることとなった。農業関係高校として一会場で農業関係高校を盛り上げていくことが確認された。

- ② 東京都農業祭（アグリフェスタ東京）への参加について

産業教育フェスティバルに代わる学校PRの活動として、平成10年度より参加しているアグリフェスタ東京への積極的参加を、教頭会・農場主任会が中心となって実施していくことを確認した。

〔第10・11回〕

- ① 新教育課程の編成に向けて
- ② 平成12年度の反省と今後の課題について

農業科常任幹事 佐々木孝志（農芸）記

6. 研究部会報告

1. 管理運営研究部会

平成12年度の管理運営研究部会は、第一委員会に40名、第二委員会に38名が所属し、それぞれ毎月1回の研究協議会を神楽坂エミールで開き、活動が続けている。しかし、ここ数年、都立高校改革の激動の中で、各学校において教頭の果たすべき責務・役割が格段に大きく重くなり、時間的忙しさのためか、この月例研究議会への参加者数が減少傾向にある。

平山順一（第一委員会）委員長、大矢保雄（第二委員会）委員長とも、参加の呼びかけに努力しているが、現状は、少数の意欲的なメンバーによって研究が支えられている実態である。

本年度の研究内容は、第一委員会では、前年度に引き続き、テーマを「開かれた学校づくり — 学校運営連絡協議会の設置に向けて — 」とした。今年度の全国教頭会研究協議大会第一分科会（管理運営 — 教頭の職務内容と管理運営上の諸問題）において、第一委員会が発表担当のため、それに向けて準備をして行った。研究方法としては、全教頭へのアンケートの集約結果を分析・考察するのではなく、まず平成11年度学校運営連絡協議会試行校28校を対象に、外部委員の人選等での配慮事項等のアンケートを実施した。しかし、まだ少数校による試行期間でもあり、今後さらに深めて行くこととし、今回は、平成13年度の本格実施に向けて、どのような観点を踏まえて準備すべきかについて検討して行った。すなわち、学校評議員制度及び学校運営連絡協議会が設置された背景、東京都教育委員会の方針、学校評価方法等について、可能な限り多くの資料に当たり、実施上の問題や教頭の役割を考え、提言をまとめて行った。

7月27日、横浜で開かれた前述全国大会では、赤坂高校の森田聖一教頭が第一委員会を代表して、上記の内容を発表した。資料の紹介と解説にやや傾きがちであったが、全国に先駆けて実施する学校運営連絡協議会への熱い思いが伝わる力の入った発表であった。大会後、全国から詳細についての問い合わせが来ており、反響があった。

また、第二委員会の本年度の研究内容は、平成13年度・長崎における全国大会の発表に向けて、「教頭の職務 — 情報管理（事案決定、情

報化への対応）」と平成12年度から実施している「人事考課」の両方をテーマとし、都立高校全日制の全教頭にアンケート調査を実施し、現状はあつと分析・考察を行うこととした。主な調査項目は、「管理職としての情報化への対応」で、A T I M S の操作可否、パソコン活用能力、「教頭の事案決定」で、起案状況、起案文書管理、「人事考課」で、自己申告書提出状況、面接実施状況、授業観察実施状況、業績評価のための記録状況、等である。

10月に「事案決定」、12月に「情報化への対応」と「人事考課」のアンケート回答を学区教頭会で依頼し、回収、現在集計中である。各高校における種々の課題や問題に、教頭が立ち向かって、学校改革を目指し、日夜奮闘している姿の窺える結果が明らかになりつつある。

なお、9月11日、都立教育研究所で開催された都立高等学校教頭研究協議会には、第一委員会からは、7月に行われた全国大会と同内容で、東大和高校の浦部万里子教頭が代表して発表した。第二委員会からは、第四商業高校の大倉範幸教頭が、「教頭の職務 — 開かれた学校運営 — 」のテーマで、平成11年度から研究を続けて来た授業公開、家庭地域との連携、学校評価に関するアンケート調査結果と考察を発表した。その後、甲州英雄指導主事、岡田文彦前芝商業高校校長、菊池文次前墨田川高校校長より、教頭としての心構えについて、貴重な体験に基づく厳しくも暖かい助言を伺った。

1月末現在、第一委員会も来年度の研究テーマの検討に入っているが、後記の平山委員長の報告と訴えにあるように、まだ具体化していない。

毎月第一木曜日の月例回は、都立高校の抱える課題解決の糸口を探る研究協議の場であると共に、学区を越えた全都の教頭同士の情報交換・情報発信受信の場でもある。学区教頭会では得られなかった事例を自校の実践に即参考にできることも稀ではない。何かと時間を作って一人でも多くの方が参加することを期待している。

部長 白木和敏（清瀬）記

第1委員会（学校管理関係）

管理運営研究合同研究部会

標記の会合が下記の日程及び内容で行われた。

平成12年4月27日（木）15時

神楽坂エミール

- 1 平成12年度管理研究部顔合わせ（第1・第2委員会）
- 2 平成12年度の活動方針
- 3 役員選出
- 4 分科会
- 5 今後の研究方針について

第1委員会の出席者は、平山の他には閨間教頭（世田谷工）及び新しく第1委員会に所属することになった田中教頭（板橋）と高橋教頭（府中工）の合計4名で、あいかわらず出席率が悪い。今後の運営を憂慮するが、とにかく始めることにした。

司会は、調布北の錦田教頭と調布南の平山が担当する。挨拶は、管理研前部長の新妻紘国際高校教頭をお願いした。

次いで役員の選出が行われ、すでに内定している委員長及び副委員長の承認を得た。第1委員会委員長に平山、第2委員会委員長に、八王子高陵の大矢保雄教頭が選出された。各副委員長には保谷高校の町田教頭と府中東高校の石坂教頭が選出された。

その後、第1及び第2の各委員長に分かれて会議を進める。今年度の第1委員会の会計担当として、板橋工の田中教頭をお願いをした。第1委員会は今年度の前回発表を担当しているので、その日程をにらんで今後の予定等を話しあった。大きなテーマを「開かれた学校づくり」に置き、具体的には学校運営連絡協議会を扱うことになっている。

学校が閉鎖的と指摘されている現状、それを打開する一つの方策としての連絡協議会という認識に達、どのように論を進めるか、資料等も踏まえて各委員の意見を出しあった。

第2回委員会

平成12年5月12日（木）15時

神楽坂エミール

出席者は田中（板橋）、玉井（隅田川）、平山の計3名の教頭。発表を森田教頭（赤坂）及び浦部教頭（東大和）をお願いしていたので、

お二人の参加を強く望んでいたが、森田教頭は定刻には参加できない。浦部教頭は当初参加を予定していたが、都合がつかず急遽欠席の連絡が入った。

発表原稿に基づき各委員の意見交換をした。また、前日に第1回幹事会が開催されたので、その内容を感じ嘆に参加者に紹介した。特に就職の早期選考に関わることが話題となる。就職希望者の多い学校は、生徒及び教員ともに不安があり、その対応とともに実際にどのような結果になるかが不透明であることが話題となった。森田教頭は予定した時間に間に合わず、散会後平山と合い、原稿について話しあった。

その後FAXを各委員に原稿を流し、自由に内容について意見をもらうことにした。

第3回委員会

平成12年6月12日（木）15時

神楽坂エミール

出席者は、島宮（都立大附属）、田中（板橋）、浦部（東大和）及び平山の4名。

最終稿として検討する。また、6月6日の第1回運営委員会、6月8日の総会を踏まえて連絡及び意見交換を行った。

6月19日に都へ提出し、指導主事の校閲をお願いした。また、7月7日付のFAXで相川教頭（第三商）に9月に行われる研究協議会の記録や司会等の担当者の連絡をした。担当は以下の通り。

発表：浦部（東大和）

司会：伊藤（狛江）、高橋（府中工）

記録：安田（竹早）、田中（板橋）

委員会は開催しなかったが、7月に行われた全国大会の発表で、原稿に若干の不十分な表現が感じられたので手を少し加え、9月の研究協議会の原稿とした。

9月の研究協議会以降は、平山が英語の全国大会との絡みで日程がとれず、以下に記すように、11月に入ってから委員会となってしまった。

第4回委員会

平成12年11月2日（木）15時

神楽坂エミール

出席者は平山の他には伊藤（狛江）、安藤（第二商）の3名のみであった。

来年度のテーマ、発表担当者、原稿提出までの日程等の連絡を行う予定であったが、内容をほとんど詰めることはできなかった。

大きなテーマとしては「開かれた学校づくり」を継承し、今年度の内容をより深める方向で検討していきたい。

毎度のことながら出席者の少ない委員会を、どのように実りあるものとするができるのか、課題として常に頭を悩ましている。年明けに新たに委員会を開催し、テーマ等を絞り込む必要がある。限られた日程を有効に活かしたい。原稿を書きながら、少しでも多くの委員の目にとまり、参加者が増えることを祈るばかりである。

現在のように、学校の課題が山積みとなっている時こそ、教頭が明確な教育論を持ち、各校の様々な状況に合わせて柔軟な対応を持ち、信頼される学校づくりに精魂を傾けたい。そのためにも、多くの教頭の知恵を出しあう場が必要である。教頭研究部会は、そのような場であると感じるが、如何であろうか。教頭自身が、何か面倒なことをさけるような今の様相では、校長会の理解も得られないと思う。多くの教頭の猛省を促したい。

委員長 平山順一（調布南）記



第2委員会（職務・待遇関係）

第1回管理運営研究部合同研究会

平成12年4月27日（水）神楽坂エミール

1. 平成12年度役員選出

研究部長 白木和敏（清瀬）

第1委員会委員長 平山順一（調布南）

第2委員会委員長 大矢保雄（八王子高陵）

2. 確認事項

全国大会の発表第1委員会

発表原稿の提出先と締切日

3. 分科会

第1委員会と第2委員会は別室にて研究協議

4. 研究協議

9月の発表原稿のためのアンケート調査結果の集計と考察。

第2回研究協議会 5月2日 エミール

発表原稿の完成と9月の教頭会研究協議会の役割分担。発表者 大倉 範幸（第四商）

発表原稿は最初に指導部に提出し、校正を経てから、事務局に提出することにした。

平成13年度の全国大会に向けての取り組みを開始する。

第3回研究協議会 6月1日 エミール

平成13年度の全国大会発表に向けての全体的な取組について検討を行う。長崎大会の発表者は、針馬 利行（練馬）、都教頭会の発表者は、石坂 敦子（府中東）に決定した。次に研究主題について討議を行った。

第4回研究協議会 6月29日 エミール

研究主題についての最終協議を行い、「教頭の情報管理」と「人事考課」の2本立てで研究を推進することを決定する。最初の取組は、「情報管理の中の教頭事案決定」のアンケート用紙の作成である。

第5回研究協議会 7月11日 エミール

「教頭の事案決定」についてアンケートの内容の検討を行う。9月末間で二冠性を目指してファックスのやり取りで研究を推進することを確認する。

第6回研究協議会 9月28日 エミール

「教頭の事案決定」についてアンケート用紙がほぼ完成する。「教頭職としての情報化への対応」と「人事考課」についてのアンケート調

査用紙の作成の構想に入る。

ファックスのやり取りで作成を目指していく。

第7回研究協議会 10月5日 エメール

「教頭の事案決定」についてアンケート調査用紙が完成する。10月の学区教頭会では配布することを決定する。

「情報化への対応」と「人事考課」のアンケート調査用紙の作成を目指して協議を深める。

12月の完成を目標に、ファックスでのやり取りで作成していく。

第8回研究協議会 11月2日 エメール

「情報化への対応」と「人事考課」のアンケート調査用紙の骨子がほぼ固まってきた。1、2月の学区教頭会で配布できる体制づくりに入っている。

第9回研究協議会 11月30日 エメール

「情報化への対応」と「人事考課」のアンケート調査用紙を完成する。12月上旬に学区の全員を通してアンケート調査用紙の配布を行う。

第10回研究協議会 12月22日 エメール

「教頭の事案決定」の調査用紙の集計と1部の分析を開始する。

第11回研究協議会 1月11日 エメール

「教頭の事案決定」のアンケート調査用紙の集計とその分析を行う。

「情報化への対応」、「人事考課」のアンケート調査用紙の部分集計を行う。

第12回研究協議会 2月6日 エメール

「教頭の事案決定」の考察を完成する。「情報化への対応」、「人事考課」のアンケートの全体集計を行う。

第13回研究協議会 3月1日 エメール

「情報化への対応」、「人事考課」のアンケートの最終集計と分析・考察を行う。研究のまとめについて協議する。平成14年度の研究推進者（都教頭会研究協議会の発表者を含めて）を決定する。

委員長 大矢 保雄（八王子高陵）記

2. 高校教育研究部会

本研究部会では、12年度の9月までは、第1委員会は都立各高校の新教育課程編成に向けての取り組みを「総合的な学習の時間」の観点から事例を中心に調査・研究した。その成果を7月に神奈川県の新横浜プリンスホテルで行われた全国高等学校教頭会で、都立牛込商業高校の福岡教頭が発表した。新教育課程への関心は高く、多くの質問が寄せられ、発表後も発表者に問い合わせがあった。

第二委員会では新教科「情報」について、その実施上の課題を、アンケート結果をもとに調査研究を行い、9月に都立教育研究所で発表した。

12年度4月からは、第1、第2委員会の委員長が話し合い、2つの委員会が合同でそれぞれのテーマの研究調査、まとめを行うことにした。さらに12年度からは日比谷高校のご理解を頂き会場を移して行ってきた。

人事考課制度の導入等、各校が自校の課題で頭を抱える中、各教頭には大切な時間の中から当研究部会のために貴重な時間を捻出して頂いた。出席された教頭の方々に感謝したい。毎月の例会では、研究協議の中で、各校の取り組み状況や課題が報告され、お互いの学校を客観的に考える場とすることができた。さらに、このような厳しい時にこそ、教頭が互いに協力し合い励ましあうことも大切であることをお互いに強く感じあえた。

13年度は、このような教頭会の研究部会が出張扱いにならなくなるという。これまでこの研究部会を支えて来られた教頭各位にはきわめて残念なことであろう。今後も研究する意欲・情熱は変わらないと考える。

全ての学校の教頭が、管理研、高校教育研、生活指導研に属しているが、毎月一回の研究会に参加する委員が少ないことも事実である。

各校がおかれた状況の中で、教頭が出席しにくい状況は確かにあると考える。その中で一つの成果を出していくことが本研究部会のなすべきことと考える。

最後に、これまで研究を推進されてきた先生方、ご支援賜った校長先生方、事務局の先生に深く感謝申し上げたい。13年度もこれまでの研

究をさらに充実・発展させることを祈念して結びの言葉としたい。

部長 小林 淑訓（飛鳥）記



第1委員会（教育課程関係）

第1回委員会

平成12年4月27日（木）新宿山吹高校

研究協議に先立って、第1、第2委員会合同で平成12年度の高等学校教育研究部長として飛鳥高校の小林淑訓を選出した。さらに委員長には羽田高校の武山洋二郎を選出した。

この後、各委員会に分かれて協議した。新しい委員を迎えての委員会であるので、自己紹介の後、委員長から、昨年度までの研究経過と、全国大会の発表をひかえている現在の状況を報告した。

第2回委員会

平成12年5月2日（火）工芸高校

全国大会での発表者を、牛込商業高校の福嶋順一と決定し、委員が協力して作成した全国大会原稿の検討を行った。委員会の時間だけでは検討が終了しないので、参加各委員が持ちかえり、原稿の提出期限に間に合うよう、訂正部分をファックスで委員長まで連絡することを確認した。

第3回委員会

平成12年6月1日（火）飛鳥高校

作成した原稿の読み合わせをし、変更すべきと思われる部分を検討した。同時に文言の推敲を行う、内容についてさらに協議した。

第4回委員会

平成12年6月29日（木）富士高校

福嶋が作成した発表原稿の読み合わせと、発表内容と表現について各委員の意見を出しあった。より分かりやすい発表原稿に仕上げた。OHPの表示内容についても検討した。

第39回全国高等学校教頭会研究協議大会

平成12年7月27日・28日の両日、神奈川県新横浜で行われた。本委員会から福嶋が「新しい教育課程づくりに向けた教頭の役割」と題して発表した。OHPを使いながら分かりやすく発表し、好評を得た。

3件の質問があり、本委員会の研究内容に対する関心の高さが感じられた。

都立高等学校教頭会研究協議会

平成12年9月11日（月）都立教育研究所

大森高校の小林幹彦が提案者として「新しい教育課程づくりに向けた教頭の役割－総合的な

学習の時間について」を発表した。前新宿山吹高等学校長の安井幸生先生に、助言者として指導いただいた。事例調査に興味を示され、私立高校の件に関する総合の授業について質問された。さらに、総合的な学習の時間の導入が決定される時点でのお話があり、改めてその意義・経緯を確認した。

第5回委員会

平成12年10月6日（木）明正高校

9月に行なわれた教頭研究協議会での、指導、助言を踏まえ、発表の反省を行った。平成12年度は、総合的な学習の時間を試行している学校があり、この課題の研究は終了とした。

次に、来年度の研究課題について、意見交換を行った。14年度の学校週5日制の完全実施に向けての移行措置と教育課程の検討状況、及び「総合的な学習の時間」「情報」に関わる教育課程の編成が、各学校での教育課程に関わる課題であることを確認した。

第6回委員会

平成12年11月2日（木）牛込商業高校

平成13年度の研究課題を、学校週5日制の完全実施に向けての教育課程と、平成15年度の新教育課程の実施に向けての教育課程の編成状況を、質問紙を利用して調査・検討することとした。調査する内容の概略について協議した。

第7回委員会

平成12年11月30日（木）日比谷高校

武蔵村山東高校の初見が、教育課程を調査するための質問紙を作成し提案した。内容、表現、形式について参加者で検討した。誰でも読めば分かる表現を目指して、次回までにさらに各委員で検討し、改善部分を指摘することを宿題とした。

第8回委員会

平成13年1月11日（木）日比谷高校

前回で検討した結果出来上がった質問紙をさらに検討した。次回の委員会で完成させ、2月の教頭会で回答を依頼し、2月中に回収を行う計画を立てた。

委員長 武山 洋二郎（羽田）記

第2委員会（教育対策関係）

第1回委員会

平成12年4月27日（木）14:00～17:00

於 新宿山吹高校 出席者4名

第1、第2委員会合同で部会を開く。初めに昨年度に引き続き部長に小林淑訓（飛鳥高）を選出した。

続いて、今年度の連絡体制について協議した。次に自己紹介の後、委員会の昨年度活動状況を振り返り研究部会の活性化に向けて、委員の出席を促す方法について話し合いをした。

その後、各委員に分かれ、委員長に村井（明正高）、副委員長に清水（向丘高）を選出した。さらに、今年度の都の研究協議会での発表内容を検討。昨年度の全国発表テーマを引き継ぎ、新教科「情報」導入における教頭の役割を主題とした。

第2回委員会

平成12年5月2日（火）14:00～17:00

於 工芸高校 出席者5名

昨年度の基礎データから「情報」導入の課題を整理するために、各委員に下原稿の執筆を依頼することを確認し、執筆内容例の検討をした。

第3回委員会

平成12年6月1日（木）14:00～17:00

於 飛鳥高校 出席者4名

委員により執筆された各原稿を協議し、「研究集録」27号用にレイアウト等を整理した。

第4回委員会

平成12年6月29日（木）14:00～17:00

於 富士高校 出席者5名

都研究協議会での提案者、司会者、記録者を決定し、次に、発表原稿及び質疑対応の検討をした。

第5回委員会

平成12年9月7日（木）14:00～17:00

於 都立教育研究所 出席者4名

教頭研究協議会運営委員会終了後、都研究協議会に向けての最終打ち合わせをした。

都立高等学校教頭会研究協議会

平成12年9月11日（月）13:15～16:30

於 東京都立教育研究所 35研修室

提案者：清水（向丘高）により発表。新教科「情報」と教頭の役割と題して、インターネッ

ト利用・個人情報保護に関するガイドライン作り、人権尊重教育の推進、研修の充実を柱に提案した。

久世亘克先生（前都立武蔵高校長）に21世紀には産業革命に匹敵することが起こると思われる、情報教育に真剣に取り組む必要があるとの指導・助言をいただいた。

第6回委員会

平成12年10月5日（木）14：30～17：00

於 明正高校 出席者4名

今年度研究の反省の後、来年度の研究テーマについて協議した。次に来年度の部長・委員長候補についても検討し、継続協議とした。

第7回委員会

平成12年11月2日（木）14：30～17：00

於 牛込商業高 出席者4名

来年度委員長候補として内田（日比谷）を確認、内諾を得る。

来年度の全国教頭研究協議会発表内容を検討。新教科「情報」については過去2年間の研究でほぼ課題等を洗い出したので、来年度は「学校外学修」について取り上げることに決定した。

第1委員会のテーマ「総合学習」とも関連させることができるかどうかについても協議した。

最後に研究部会の活性化について、第1委員会と合同で話し合った。

第8回委員会

平成12年11月30日（木）14：30～17：00

於 日比谷高校 出席者5名

各委員からの「学校外学修」についてのアンケートに対する意見を集約。質問内容の整備と回答欄・集計用紙の工夫をした。

第9回委員会

平成13年1月11日（木）14：30～17：00

於 日比谷高校 出席者4名

アンケート第2稿の検討に入る。質問項目の卒業単位数については、13年度～15年度に分けて質問することとし、第1委員会のアンケートに入れることでデータを両委員会で共有することとした。

アンケートは再度、各委員に図り、2月の委員会で最終決定をする予定。

来年度の部長についても検討に入る。

委員長 村井 信彦（明正）記

3. 生徒指導研究部会

生徒指導研究部会では、ここ数年、教員のカウンセリングマインドについてその実体を考察してきた。それは、価値観や生活様式が多様化している生徒の有りようにうまく対応しながら適切な生活指導の方法や理論をどのように作り上げるかという建設的な観点から考察してきた。これは、東京都教育委員会の基本方針にある人権尊重の精神の育成や、東京都が掲げる心の教育にも関係することである。これらの指針は、一見生徒を対象とした教育のように見えるが、教育を施す主体の教員が一番心得ていなければならないことである。

例えば、心の教育の中で、社会的行動規範をどのように内面化させるかという方法について、我々生徒指導研究部会では、カウンセリングマインドを持って生徒と接し、教員と生徒の間に信頼関係が作り上げられてこそ、生徒は教師の言うことを納得を以て受け入れられるのだ、ということを強制してきた。この信頼関係を作り上げる基本は、「確かな生徒理解」を背景にした指導の実践である。思春期の子供は、その心理的特色として、両価感情（アンビバレント）の大きな揺れがある。従って、行動化されたものと心理的な感情とに大きく乖離した実体があると考えなくてはならない。

また、この時期の子供は、言語生活能力も成熟し、言葉のやりとりの中で相手の気持ちを推し量ることができるようになっている。教師の方も、その生徒たちの力量に依存し、言語化されたところでのみ、子供の心を知ろうとしがちである。しかし、前述したように言葉の中にも表出された言葉の意味とは異なる気持ちを含ませていることがあることに気づかなくてはならない。特に、否定的な表現をとったときには注意が必要である。

ある生徒が、無断で早退しようとしているところを担任に見とがめられ、玄関で後から服を捕まれたが、その生徒は振り向きざまに勢いで担任の頬をひっぱたいてしまった。事情を聞かれたとき、その生徒は、「担任が嫌いだからひっぱたいてやろうと思った。」と言った。その結果をもたらした表現は、客観的状況を知れば知るほど、居直りの中で発せられた言葉のよう

に思えた。正直に、「振り払おうとした勢いで、手が偶然当たってしまった。」と言えよかったのだが、それが言えなかったのである。

これらの例をみると、行動化されたものや、言語化されたものが“否定的”な表現であるために、刺激的に教師に迫ってくる。それ故に、その裏に秘められた子供の気持ちを見失っている。そのような中で、教師は「子供の表現（言・語）から、彼等の内面世界を豊かにイメージして把握する。」努力と能力を要求される。

そのようなことから、教師は、教員の日常の活動を注意深く観察し、人権問題や、生徒理解のあり方について、常に指導助言できる力量を持っている必要が生じてくる。我々教頭会の研究部会では、そのような状況から、熱心に研究活動を繰り広げて来た。その成果は、全国大会の発表の中で、文部省の係官から貴重な研究であり大いに参考になると評価されたり、「日本教育新聞」に紹介されたりして、大学関係者から資料の請求があったりして、東京都以外の教育関係者からの評価の研究部会を保证するシステムが作り上げられるように、教頭自身が努力していくことが重要になってくる。特に生徒指導研究部会では、生徒の実体即して今日的な課題を設定し、教頭の日常活動に寄与することの出来る成果を上げようとしている。

これらの教頭会研究部会の実績を今後も継続して上げられるように我々は努力してゆかなければならないし、その要求はますます高まってくるものと思われる。

部長 橋本 謙（北多摩）記

第1委員会（生徒指導関係）

第一委員会の平成12年度の活動は、1学期に集中して行われた。すなわち、7月の全国大会での発表と、9月の教頭研究協議会での発表原稿の準備であった。このため、毎月の定会以外にも、何回か担当者が会合を持ちようやく間に合わせたと言うのが実情である。

第1回 平成12年4月27日（木）

神楽坂エミール 参加者 7名

15:00～17:00

初顔合わせののち、平成12年度の新役員が選出され、委員長には梶野茂男（城北）が、副委員長には内田志づ子（砂川）が内定した。

第一委員会は、平成12年度の全国大会の発表の順番なので、昨年9月に教頭研究協議会で発表した内容をベースを、各学年から改めて事例を集めることにした。

一研の今年度のテーマは「高校生の健全育成と地域との関わり」に関するアンケートを実施する事にし、趣旨についての文案を討議した。

第2回 平成12年5月9日（火）

神楽坂エミール 参加者 6名

15:00～17:00

全国大会の発表原稿の検討を行う中で、指導に失敗した事例だけではなく、成功した事例も併せて載せるべきだと言うことになり、代表的事例を追加することになった。

一方、今年度のテーマのアンケートの文案はなかなか趣旨が決まらず難航した。焦点をどこにしぼり、何を狙いとするのか、多忙な教頭にアンケートに答えてもらうための工夫は何かを巡って論議が揺れた。（「学校現場では地域との関わりをどのように実践しているか」「地域からの苦情等に学校がどう対応しているのか？」等々での教頭の関わり）

第3回 平成12年6月1日（木）

神楽坂エミール 参加者 6名

15:00～17:00

全国大会発表用原稿は、事例の提供者の文体と表記がさまざまその統一や人権に配慮した表現をどう工夫するか等に手こずった。また、一研としてこれらの事例を考察する中で何を教訓としてまとめていくのかに論議が集中した。

アンケートは、ようやく質問項目・対象が固まり以後迅速に進行した。（6月初旬～中旬）

ただ、第4回の研究部会は7月に設定することができず、少人数の担当者が教頭研究協議会発表用の文案を作成した。

第4回 平成12年7月28日（金）

第39回全国高等学校教頭会総会・研究協議大会

第3分科会 生徒指導

9：00～11：30 横浜プリンスホテル

『問題事例の分析と防止策について

— 教頭の役割と対応の実際 — 』

発表者 都立城北高等学校 梶野 茂男

発表資料集には4事例が集録されているが、時間の制約で3事例のみ発表した。

＊この報告は、日本教育新聞の7月28日号に掲載され、「教員は独善的意識改革を」

「不登校・中退問題に教頭は何ができるか」

「不用意な一言で事態悪化も」の見出しで2つの事例が紹介された。

平成12年9月11日（月）

教頭研究協議会

都立教育研究所 13：15～16：30

「高校生の健全育成と地域との関わり」

発表者 都立砂川高等学校 内田志づ子

生徒研第一委員会は第5分科会として36名が参加した。他の分科会は2名の発表のため、十分に研究協議の時間が取れなかったのに対して本分科会は1本だけの発表のため、活発な質疑応答が繰り広げられた。

討議の柱は、学校運営連絡協議会における地域との関わりと学校評価をどうするかと言うことと苦情処理における教頭の役割だった。

助言者の前大泉高校長の吉野尚也先生からは、ポリシーを持つことの重要性、教頭が判断職であること、苦情処理の鉄則は、最初の電話対応であることなど有意義な助言をいただいた。

第4回 平成12年10月26日（木）

神楽坂エミール 参加者 5名

14：30～16：30

10月例会では、9月の研究発表の反省を行った。また、全国大会の発表も終わったので少々一服状態で、13年度のテーマについて意見交換を行った。その中で、カウンセリング・マインドについてカウンセラー派遣校での経験や、次年度以降カウンセラーの中学校への全校配置の

動きやカウンセラーの資質の問題等について話し合わせ、テーマ決定は次回に持ち越した。

第5回 平成12年11月9日（木）

神楽坂エミール 参加者 4名

14：30～16：30

研究課題について議論し、カウンセラー派遣校（文部省の研究指定校）における教員の意識の変化について比較調査することに決定した。

第6回 平成12年11月30日（木）

神楽坂エミール 参加者 6名

14：30～16：30

生徒指導困難校に集中しているカウンセラーの派遣校において、派遣以前の教員の感覚と派遣後のカウンセリングマインドの定着状況を調査することになり、『カウンセラー活用調査報告書』を手分けして入手することになった。

第7回 平成13年1月11日（木）

神楽坂エミール 参加者 5名

15：00～17：00

参加者は少数だったが新しい参加者が加わり有意義な会となる。報告書の入手分担決定。これまで3回に渡り、参加者に文部省の「教育相談の進め方」第26集を参考図書として配布。

連絡方法の工夫をする中で、欠席者の校務の状況も分かり、委員長への所属意識が少しずつ高まっている手応えを感じる。

第8回 平成13年2月6日（木）

神楽坂エミール 参加者 名

15：00～17：00

第9回 平成13年3月中旬以降

研究協議の席にカウンセラーを講師として招き話を伺う予定である。

最後に、研究部活動では1－2年目の教頭の参加が少ないのと連絡体制をどうつくるかが今後の課題である。

第1委員長 梶野茂男（城北）記

第2委員会（教科外活動関係）

第2委員会では、生徒の多様化に伴い、各学校で直面している様々な生活指導の実態とそれに関わる教頭のあり方を考えようと、平成10年度から「生徒指導の体制と実態」をテーマに研究協議を重ねてきた。

昨年度は、このテーマを引き継ぐとともに、「保護者との連携を深める生徒指導」を副題に教頭が保護者との間で体験した事例をアンケート調査し、学校と保護者間のトラブルやその原因・対応・取り組みを集計し研究を深めた。

12年度は、前年度の研究をさらに深めようと、ホームルーム指導とそれに関わる保護者の対応に焦点を当て、「実態調査から見たホームルーム運営と保護者との関わり」をテーマに全都の教頭にアンケートを依頼し、9月の都立高校教頭研究協議会で、大山憲昭八王子工業教頭が提案者となり、アンケート調査の集計結果や研究成果などの研究発表を行った。

9月以降は、これらの調査結果を活用し、より一層研究を深められるよう協議を重ね取り組んでいるが、研究部の例会に出席する委員の参加が極めて少なく、研究を発展させるには非常な困難が続いている。これからは、今後の研究活動の活性化が大きな課題である。

第1回委員会（参加者4名）

4月27日（木）14時30分より神楽坂エミールで開催。新年度はじめての会合のため、第1・第2委員会合同で各委員の自己紹介が行われ役員改選をした。第2委員会の委員長には坂本文樹（昭和）を選出した。

新委員が多いため、前年度からのテーマ「実態調査から見たホームルーム運営と保護者の関わり」を説明し、共通理解を深めた。今年度は各学校が抱えるホームルーム経営上の問題点をアンケートから抽出し、教頭としてできるホームルーム指導への関わり方とその可能性を研究協議することを確認した。アンケート調査の実施状況を報告し、結果の集計、考察の日程を立てた。

第2回委員会（参加者1名）

6月1日（木）14時30分より神楽坂エミールで開催。各種会議や事務連絡等の出張が重なり参加者1名だったため、予定されていた打ち合

わせは出来ず、第1委員会・第2委員会合同の情報交換が行われた。人事考課についての各校の情報が発表され、自己申告書の提出状況や面接など意見交換が行われた。周辺の高校の状況が把握でき、貴重な情報交換だった。

第3回委員会（参加者3名）

7月10日（月）18時より都立昭和高校会議室で開催、各学区の連絡員を通して回収されたアンケートの集計を行う。参加した委員によりホームルーム運営をめぐる保護者と学校のトラブルの事例、その対応、措置など情報交換を行い、9月の都立高校教頭研究協議会での発表者を大山憲昭八王子工業教頭に決定した。調査研究の進度が若干遅れているため今後の日程を検討し、臨時に集まることを確認した。

第4回委員会（参加者3名）

9月7日（木）17時より都立教育研究所で開催、その後付近の喫茶店に席を移し11保の都立高校教頭研究協議会発表論文を検討し最終的なまとめを行った。発表当日の補足資料や問題点などについて協議し、当日の仕事分担を確認した。会場責任者に坂本文樹（昭和）、司会に鹿目憲文（科学技術）・三戸雄造（立川）、記録に銅谷新吾（世田谷工）・室伏哲郎（羽村）に決定した。

第5回委員会（参加者2名）

10月26日（木）14時30分より、神楽坂エミールで開催。授業公開の進捗状況を中心とした情報交換を行ったのち、9月の都立高校教頭研究協議会の反省を行った。また、例会の参加者数の少なさや、今後の例会のあり方について意見交換をする。各学区の連絡委員の立場を十分活用し、例会の活性化を図る方途を探る程度で、それ以上の妙案はでなかった。

今後のテーマについて意見交換を行い、次回持ち越しとした。

第5回委員会（参加者4名）

11月9日（木）14時30分より、エミールで開催。

来年度の始業、期末考査後の日程、通年を通じた授業公開など各校で問題となっている状況について情報交換を行った。

第2委員会の研究役割である科学外活動における各校の現状、問題点、課題など意見を交換し、今後のテーマについて協議した。今までの

生徒指導やホームルーム運営における学校と保護者の関わりは、教師側から見たものであり、保護者自身はどう考えているのか調査して一層研究を深めたらどうかという点で一致し、今後の研究の方向が決定した。

第6回委員会（参加者4名）

11月30日（木）14時30分より、エミールで開催。

期末考査後の授業、授業観察、出勤監査などの情報交換後、研究協議に入る。

今日、「開かれた学校」や「地域との連携による教育」を目指すことが教育課題の一つであり、学校と保護者・地域との連携が不可欠であるとして、「保護者との連携による生徒指導」の可能性をテーマに保護者の意識調査を行い、今までの研究と対比しながら考察することになった。次回までにアンケート文面を各人持ち寄ることにした。

第7回委員会（参加者4名）

1月11日（木）15時より、エミールで開催。各校が共通に抱えている問題などの情報交換の後、研究協議に入る。持ち寄ったアンケート文の原案づくりを行った。

第8回委員会（参加者4名）

2月6日（火）の予定だったが、時期的に各種会議が重なり、学力検査の準備などで出席できない委員が多く、2月9日（金）に変更して実施した。アンケートの回収も順調に進んでおり、回収できた部分のアンケート結果をまとめ意見を交換した。アンケートの回収が終わった時点で再度結果を集計し、全国大会に向けた原稿作りを始めることになった。

また、次年度以降の教頭会への厳しい背景を考慮しつつ、今後の研究活動方針を再度確認し、新役員候補などの組織体制や研究活動の活性化を図る具体策について話し合った。

委員長 坂本文樹（昭和）記



7. 会 員 異 動

平成12年1月1日～平成12年12月31日の異動は次の通りである。

退職者（13名）

平成12年3月31日発令

学区	校 名	氏 名	備 考
2	砧工業	森 洋 介	学区幹事
4	小石川	渡 辺 徳 育	
5	荒川工業	石 塚 和 夫	
6	深 川	鈴 木 國 夫	会長
6	墨田工業	飯 高 成 男	工業常任幹事
6	葛飾商業	柘 殖 章 宣	
7	南多摩	小 暮 公 男	
7	日野台	河 西 紀 雄	
8	北多摩	松 野 靖 臣	全国会長
9	武蔵	岡 本 毅	
10	神 代	伊 佐 進 一	
10	国立	三 浦 彌 生	学区幹事
10	府中工業	鈴 木 守 文	

校長等栄進者（22名）

平成12年4月1日発令

学区	校 名	氏 名	現 任 校	備 考
1	大森東	安 保 尚 子	校 長 長 研	
1	羽田工業	本 間 豊	校 長 長 研	
3	大泉北	筒 井 邦 夫	代 々 木	学区幹事
3	第四商業	小 野 忠 光	深 川 商 業	商業常任幹事
4	向 丘	須 永 孝	淵 江	
4	工 芸	館 憲 紀	中 野 工 業	
4	牛込商業	山 崎 和 夫	桜 水 商 業	
5	日本橋	湯 淺 友 功	校 長 長 研	
5	台東商業	青 木 孝 雄	第 三 商 業	商業幹事
6	江戸川	長 島 清 志	永 福	学区幹事
6	葛飾野	中 嶋 喜 文	北 野	
6	江東商業	工 藤 篤 子	四 谷 商 業	
6	江東工業	小 林 聡	本 所 工 業	
7	成 瀬	山 口 久 夫	八 王 子 北	学区幹事
7	山 崎	榎 本 成 己	新 島	
8	東大和南	坂 本 功	青 梅 東	
8	武蔵村山	櫻 川 紘 久	日 本 橋	学区常任幹事
8	羽 村	星 壽 男	八 王 子 高 陵	学区幹事
10	永 山	小 暮 通 夫	瑞 穂 農 芸	
10	南 野	栗 岩 淳 一	校 長 長 研	生徒研第2委員長
平成12年7月1日発令				
2	市ヶ谷商業	山 本 吏 一	本 所	
平成12年10月1日発令				
5	荒川商業	藤 井 正 俊	四 谷 商 業	

全日制の転任者（24名）

平成12年4月1日発令

学区	校 名	氏 名	前 任 校	備 考
1	雪 谷	久 住 幸 雄	石 神 井	
2	駒 場	白仁田 哲 也	晴 海 総 合	
2	青 山	丹 藤 浩	小 笠 原	
2	国 際	新 妻 紘	田 無	管理研部長・全国会計
2	新宿山吹・教諭	近 藤 光 男	八 王 子 東	
3	杉 並	澁 谷 重 雄	多 摩	
3	石 神 井	前 博 之	杉 並	
3	大 泉 北	古 山 光 久	城 東	
3	第 四 商 業	大 倉 範 幸	墨 田 川・堤	
4	竹 早	安 田 健	大 島	
4	小 石 川	藤 田 正 美	神 津	
4	飛 鳥	富 田 正 次	雪 谷	学区幹事
4	〃	小 林 淑 訓	大 森	高校研部長
4	工 芸	飯 田 満	青 山	
5	日 本 橋	石 橋 忠 司	日 比 谷	
5	足 立	矢 嶋 邦 男	竹 早	会計監査
5	蔵 前 工 業	合 津 敏 夫	王 子 工 業	
6	墨 田 川・堤	北 爪 幸 夫	足 立 新 田	
6	葛 飾 野	網 谷 厚 子	江 北	
6	深 川	増 沢 和 夫	上 野	
7	日 野 台	清 野 勝 幸	第 二 商 業	
8	北 多 摩	橋 本 謙	玉 川	生徒研第1委員長
8	農 林	津 田 稔	鷺 宮	
9	田 無	清 田 秀 左右	戸 山	
10	神 代	和 田 盛 二	狛 江	

定時制からの転任者（24名）

平成12年4月1日発令

学区	校 名	氏 名	前 任 校	備 考
1	日 比 谷	内 田 和 博	上 野 忍 岡	世史
1	羽 田 工 業	戸 谷 賢 司	蔵 前 工 業	保体
2	戸 山	藤 原 成 憲	大 山	数
2	玉 川	中 川 恵	葛 西 南	保体
2	第 一 商 業	田 中 幸 治	向 島 商 業	商業
2	砧 工 業	能 智 功	中 野 工 業	機械
3	鷺 宮	谷 島 昭	第 二 商 業	政経
4	向 丘	清 水 ゆかり	教 育 庁	家庭
4	工 芸	工 藤 邦 敏	港 工 業	機械
4	王 子 工 業	渡 辺 洋	葛 飾 商 業	化学
5	晴 海 総 合	土 肥 信 雄	小 山 台	政経
5	足 立 新 田	荒 川 兼 一	江 北	地理
5	台 東 商 業	鈴 木 敏 夫	池 袋 商 業	商業
6	墨 田 川	玉 井 篤	深 川 商 業	化学
6	葛 飾 商 業	松 井 昭 夫	豊 産	保体
6	墨 田 工 業	鳥 居 雄 司	本 所 工 業	物理

学区	校 名	氏 名	前 任 校	備 考
7	町 田	浅 田 博	明 正	政経
7	成 瀬	佐 藤 勝	青 山	保体
8	東大和南	田 中 透	富 士 森	化学
8	羽 村	室 伏 哲 郎	福 生	数
8	瑞穂農芸	花 野 耕 一	教 育 庁	農業土木
9	武 蔵	星 野 秀 文	荻 窪	地理
10	国 立	山 崎 廣 道	南 葛 飾	保体
10	南 野	和 田 吉 廣	神 代	数

新任（29名）

平成12年4月1日発令

学区	校 名	氏 名	前 任 校	備 考
1	大 森	小 林 幹 彦	雪 谷	保体
1	大 森 東	小 池 幸 彦	両 国	生物
4	板 橋	田 中 一 彦	成 瀬	化学
4	牛込商業	福 嶋 順 一	杉 並	保体 4 / 10発令
4	桐ヶ丘	柳 久美子	小 山 台	数
5	上 野	飯 田 幸 男	昭 和	国
5	晴海総合	國 分 達 夫	園 芸	数
5	江 北	高 田 幸 一	桜 町	保体
5	城 東	吉 川 英 雄	神 津	国
5	荒川工業	鍋 島 博 正	水 元	数
6	江 戸 川	宮 田 茂	大 島 南	国
6	江東商業	戸 田 弘 美	篠 崎	数
6	向島工業	河 野 隆 之	羽 田	保体
7	南 多 摩	芝 尾 仁	八 丈	国
7	八王子東	宗 像 敏 夫	日 比 谷	数
7	山 崎	松 浦 啓 介	八 王 子 北	国
7	八王子工業	大 山 憲 昭	多 摩 工 業	電気
8	武蔵村山	小橋川 和 子	東 村 山	保体
8	多 摩	根 岸 潔	秋 川	地学
9	小金井工業	石 井 末 勝	八 王 子 工 業	情技
10	狛 江	伊 藤 清	小 笠 原	英
10	永 山	松 本 光 正	神 津	世史
10	府中工芸	高 橋 伯 也	久 留 米	数
10	農 業	後 藤 哲	農 林	園芸
島嶼	大 島	若 井 文 隆	一 橋	数
〃	神 津	相 葉 玲	羽 村	化学
〃	小 笠 原	竹 村 恭 一	蒲 田	数

平成12年7月1日発令

2	市ヶ谷商業	太田原 弘 幸	町 田 ・ 定	保体
---	-------	---------	---------	----

平成12年10月1日発令

5	荒川商業	大 本 静 代	八 潮 ・ 定	保体
---	------	---------	---------	----

今年のは話は“ヒトゲノム”

ヒトゲノムが解明されたそうです。ゲノムの中の遺伝子地図が解明されれば、様々な遺伝的な難病も発生の仕組みが判るようになり、また、予防から、はては治療にも役立つかもしれないと医学者の期待は非常に大きなものがあるそうです。

ゲノムとは生物体を形成する遺伝子 (jene, or, Gen)の集まり全体を指し、ヒトを形成する遺伝子の総体はヒトゲノムと呼ばれます。ヒトゲノムを構成する遺伝子の数は科学者の予想よりは大部分少なく 3 万～4 万個と報道されています。遺伝的な病気に限らず、顔つき、身体つき、その他様々なヒトとしての特色は、それぞれがゲノムの中のわずかの遺伝子によって左右されるし、また、どの遺伝子も欠いてはならないという点に教師としては大変興味をひかれます。

“人間ゲノム”あるいは“個性ゲノム”はないか

現在のわが国の教育界では、個性伸長の教育が重要な課題であることは異論のないところでしょう。“特色”というより、むしろ特技を持った人材をもっと大勢育てることです。しかし、その個性はどうしたら育成できるのでしょうか。ヒトゲノムは生物としてのヒトを形成するものです。“人間”の個性は生得的な要素の他に、生育歴など社会から得たものによって大きな影響を受けるため、いっそう複雑です。個性の研究にはゲノムの研究よりさらに広範な人々の協力が必要でしょう。

個性を持つ“人間”とは単なる変人や、まして、わがまま者を意味するものではないでしょう。人間らしい心をもった個性、わが国の将来を確りと担えるような個性の持ち主でなければならぬ。そのような個性が努力や苦勞もなく、自然に育ったと言う話は聞きません。事業の成功者や優れた才能の持主が話題になる場合、比喩的に言えば、その実り豊かな“ゲノム”には、根気、忍耐力、向上心、人間としての誠実さ、社会的な責任感、勇気やチャレンジ精神、誘惑に負けず初心を貫こうとする意志の強さなど、多くの良い“遺伝子”が含まれているようです。

したがって、優れた個性とは1つの決定的な“遺伝子”のみで発現するものではなく、ヒトゲノムが多くの遺伝子によって構成されるように、様々な要素が必要になってくる筈です。

教師はもっと“個性ゲノム”の検討を！

教育行政と教育の現場との協力がしばしば強調されますが、勿論、役割分担の違いがあります。入試の改善、ゆとりの時間、新タイプの学校等々様々な施策は行われています。しかし、今日の教育の状況は、例えれば、行政サイドからの遺伝子治療だけで改善できるとは思えません。教師サイドから解明すべき“遺伝子”は研究が立ち遅れで、“個性ゲノム”の全体像が不明瞭に思われます。

例えば、子どもの特技、得意科目を伸ばせという指導は確かに1つの指導方法でしょう。それが、いつの間にか、子どもの好み任せになり、次に、子どもが嫌いなこと・面倒と感じることは一切やらなくともよいとなってしまうれば、これは教育ではなくなります。いま、問題になっている“規範意識の低下”、“大学生の学力低下”などは職員会議などではどのように議論されているのでしょうか。知育というものは耐性を養うなど徳育なしに成り立つほど甘くはありません。昔から言われてきた知・徳・体の調和とは子ども自身のよい素質を大きく育てるためにこそ必要だったのです。

この会報の編集に当って改めて1年間を振り返ると、都立高校教師の一部はゲノムよりも、人事考課や主任制等へのステレオタイプの反発に熱心で、管理職の労力は相当の部分がお決まりの“教義問答”に割かれなければならなかったように感じます。このような状況には多様な背景がありますが、物理学者の西沢潤一氏などが強調する「画一的な平等主義の払拭」は、特に、都立高校にこそ必要と思われます。そのためには、先ず、教頭自身からもっと個性を発揮し、「自分の顔が見える」ように堂々と振舞うような、教頭の意識改革が必要かもしれません。

(事務局)



横山大観 五郷先生